

大東市埋蔵文化財調査報告27集

元粉遺跡Ⅱ

—架空送電線鉄塔〔多奈二火力線・鉄塔No.255〕建替えに伴う発掘調査報告書—

2008年3月

大東市教育委員会

序 文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では太古に河内湾、河内湖、また江戸時代中頃までは深野池という大きな池が存在するなど、山や湖、池などに縁取られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有してきました。

そのような環境のなかでわたしたちの先人達は個性豊かな歴史、文化を育み、その足跡として多くの神社仏閣や遺跡、様々な美術工芸品などのいわゆる文化財が数多く残され今日に至っています。

この度、報告することになりました元粉遺跡は平成3年度における初めての本格的な発掘調査により、縄文時代から近世に至る複合遺跡であることが明らかにされ、たいへん注目される遺跡となりましたが、今回の発掘調査においても前回と同様に縄文時代から近世にいたる遺構・遺物が確認され、遺跡の歴史的価値の重要性を再認識するとともに、また鍋田川流域を中心とした古代からの大東市を復元するうえで、たいへん貴重な成果を得ることができたと思われまます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました関西電力株式会社をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできた貴重な文化財を大切に保存・活用し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成20年3月

大東市教育委員会

教育長 中 口 馨

例 言

1. 本書は、大阪府大東市中垣内3丁目における元粉遺跡発掘調査（MTK96-1）の報告書である。
2. 調査は架空送電線鉄塔（多奈二火力線・鉄塔No.255）建替に伴うもので、関西電力株式会社大阪南支店より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び整理作業は大東市立歴史民俗資料館（現、生涯学習課）、中達健一が担当した。
4. 調査面積はA区20.68㎡、B区21.6㎡、C区75.7㎡、合計117.98㎡で、調査期間は平成9年3月3日～同年4月24日である。
5. 本調査に係る費用については関西電力株式会社大阪南支店がこれを負担した。記して感謝の意を表す。
6. 本調査及び報告書作成にあたっては、下記の諸氏よりご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表す。（敬称略、五十音順）
岩瀬透（大阪府教育委員会）、大野薫（大阪府教育委員会）
7. 現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）
[現地調査]
西内敬美、日爪佑介、谷崎光子、樋口里美
[整理作業]
小堀努、小堀直子、谷崎光子、樋口里美、宮田八重子
8. 本調査における基準点、水準点測量はアジア航測株式会社に委託した。
9. 本調査で使用した座標は国土座標第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高は東京湾平均海面値である。尚、国土座標の数値については日本測地系での表示である。
10. 報告書作成に係る一部図面作成、遺物一覧表、遺物写真撮影を、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
11. 本書の執筆、編集は中達が行った。
12. 本調査に関わる遺物、実測図、写真、カラースライド等は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本文目次

序文

例言

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の方法	6
第4章 調査成果	
第1節 基本層序	8
第2節 第1遺構面	11
第3節 第2遺構面	15
第4節 第3遺構面	16
第5節 第4遺構面	17
第6節 第5遺構面	25
第5章 まとめ	36

挿図目次

第1図 範囲確認調査出土遺物	1
第2図 調査地位置図	2
第3図 大東市位置図	3
第4図 周辺遺跡分布図	5
第5図 調査区区割図	7
第6図 包含層等出土遺物	8
第7図 A区北壁・B区北壁断面図	9
第8図 C区北壁・東壁断面図	10
第9図 第1遺構面各遺構断面図	11
第10図 第1遺構面全体図	12
第11図 SK—C101平・断面図	13
第12図 SK—C102平・断面図	13
第13図 第1遺構面出土遺物	14
第14図 SD—A201断面図	15
第15図 第2遺構面全体図	15
第16図 SK—A301平・断面図	16
第17図 SK—A301出土遺物	16
第18図 第3遺構面全体図	16
第19図 SX—A402断面図	17
第20図 SX—A402遺物出土状況図	17

第21図	第4遺構面全体図	18
第22図	S P—A405平・断・根石出土状況図	19
第23図	S P—A406平・根石出土状況図	19
第24図	各S D断面図	19
第25図	B区 各S K平・断面図	19
第26図	C区 各S K平・断面図	21
第27図	S P—C236平・断面図	21
第28図	S X—A401出土遺物(1)	22
第29図	S X—A401出土遺物(2)	23
第30図	第4遺構面出土遺物	24
第31図	S K—A501平・断面図	25
第32図	S X—A501断面図	25
第33図	第5遺構面全体図	26
第34図	S X—A501遺物出土状況図	27
第35図	S X—A501出土遺物	27
第36図	S D—C301土器①出土状況図	28
第37図	S D—C301土器②出土状況図	28
第38図	S D—C301土器③出土状況図	28
第39図	S D—C301出土遺物(1)	29
第40図	S D—C301出土遺物(2)	30
第41図	S D—C301出土遺物(3)	31
第42図	S D—C301出土遺物(4)	32
第43図	S D—C301出土遺物(5)	33
第44図	S D—C301出土遺物(6)	34
第45図	S D—C301出土遺物(7)	35
第46図	S D—C301出土遺物(8)	35

表 目 次

第1表	出土遺物一覧表	37
-----	---------	----

写真図版目次

図版1 遺構(1)

1. A区第1構面全景(北より)

2. A区第4遺構面全景(南より)

図版2 遺構(2)

1. A区第5遺構面全景(北より)

2. A区S X—A501遺物出土状況(東より)

図版3 遺構(3)

1. B区第1遺構面全景(北西より)

図版4 遺構(4)

1. C区第2遺構面全景(北より)

図版5 遺構(5)

1. S D—C 301(北東より)

図版6 出土遺物(1)

図版7 出土遺物(2)

図版8 出土遺物(3)

図版9 出土遺物(4)

図版10 出土遺物(5)

2. C区第1遺構面全景(北東より)

2. S P—C 236(南西より)

2. S D—C 301土器③出土状況(北より)

第1章 調査に至る経緯

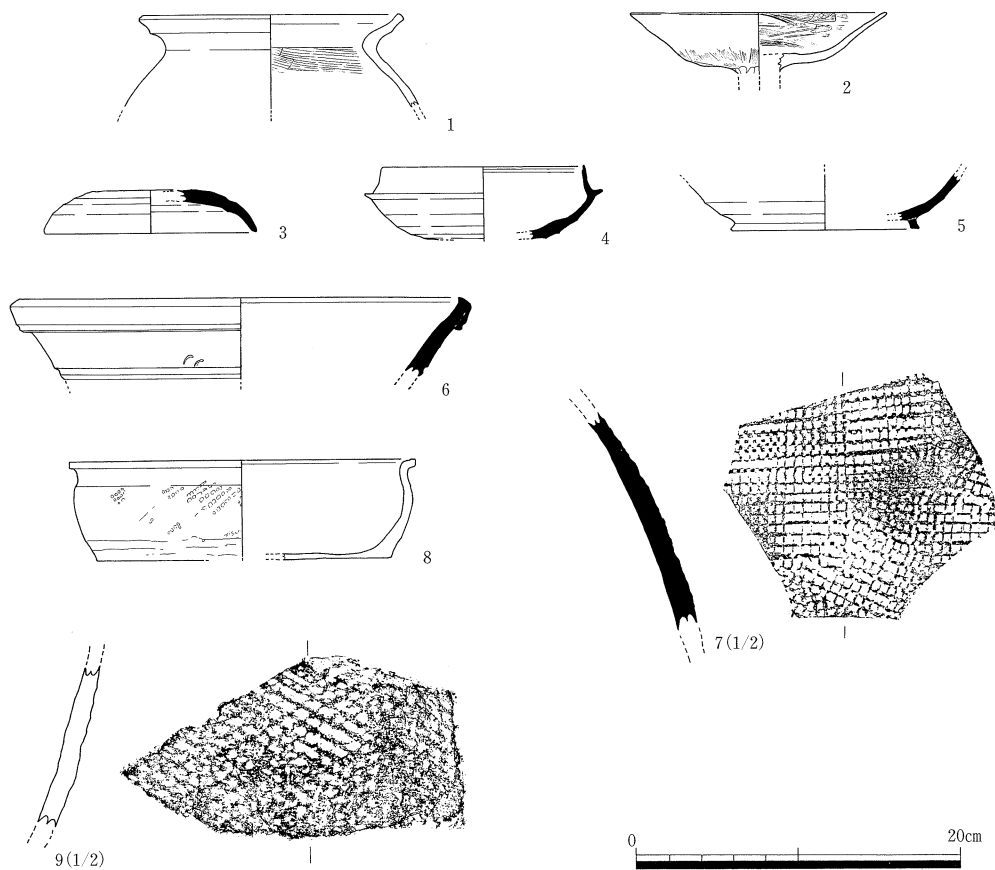
元粉遺跡は従来、散布地として周知されてきた遺跡であったが、平成3年度に初めて本格的な発掘調査が実施されたことにより、縄文時代から近世に至る複合遺跡であることが確認された遺跡である。

今回の調査は、関西電力株式会社大阪南支店により架空送電線鉄塔の増強工事の事業計画がなされたことによる。この事業計画は電力需要の増加のため、将来において電力供給不足の状態が懸念されることから、東大阪変電所の電力容量を増やすこととなり、そのため一部送電線（多奈二火力線）鉄塔を大型化するために既存の鉄塔を建替えるというものであった。

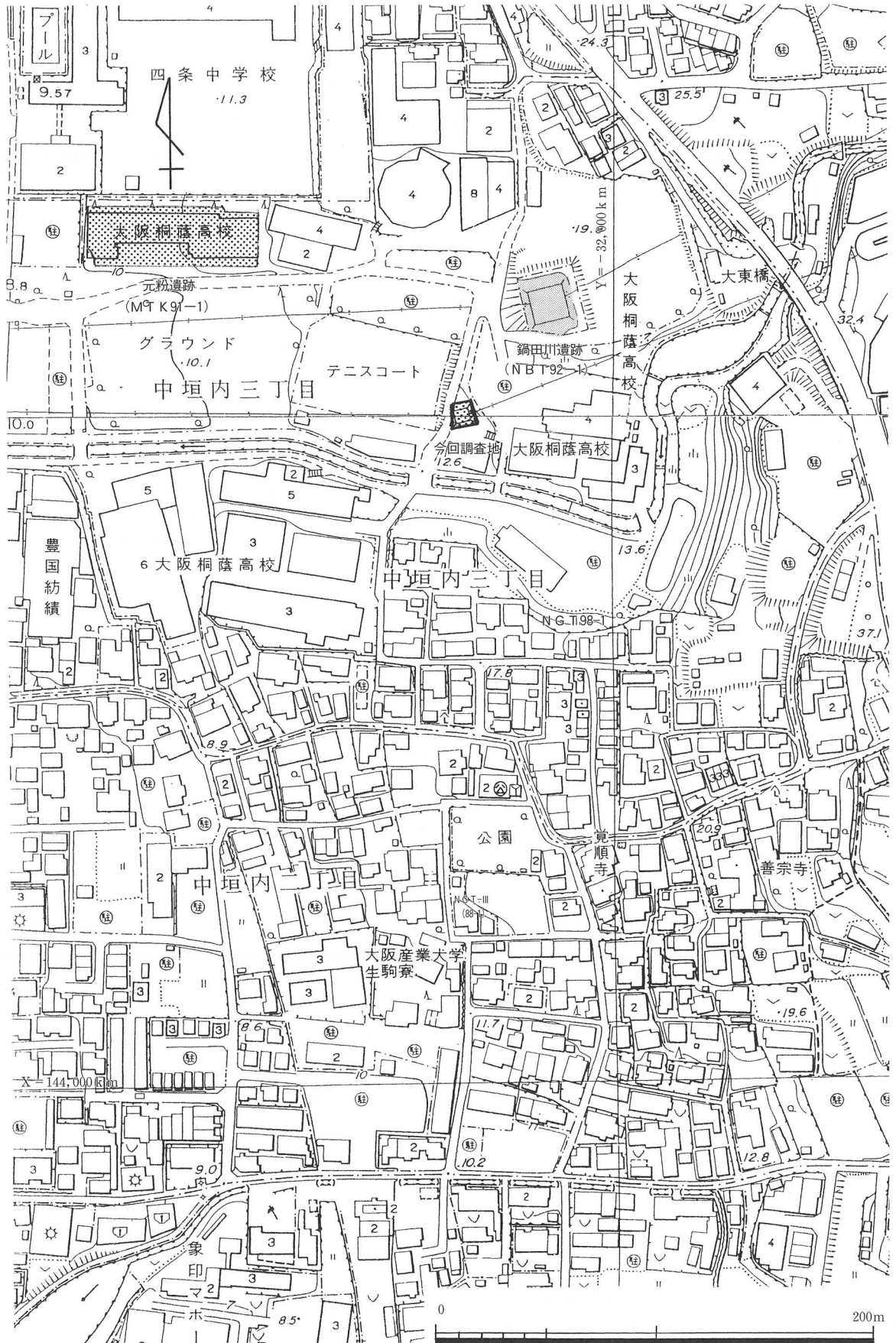
これらの計画について、関西電力株式会社大阪南支店より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあったことから、本市教育委員会では、文化財保護法第57条の2（現、93条）に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。

今回の調査は、当該事業における多奈二火力線No.255号と称される鉄塔が対象であり、平成8年5月14日に本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がり確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の特殊性もあり計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

調査は既設鉄塔部分を除いた鉄塔拡幅部分117.98㎡を対象に、平成9年3月3日から開始し、同年4月24日まで実施した。



第1図 範囲確認調査出土遺物



第2図 調査地位置図

第2章 遺跡の位置と環境

元粉遺跡は大阪府大東市中垣内3丁目一帯にかけて所在し、南北約140m、東西約160mの範囲を持つ遺跡である。平成3年度に初めての調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に奈良時代の集落跡を確認など貴重な成果をあげている。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地に立地している。

以下、大東市域の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年の東大阪変電所建設時における出土のため、その詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、自然河川、自然流路、包含層等からの出土ではあるが主に宮谷川、鍋田川周辺の遺跡から中～晩期を中心とした土器の出土が確認されている。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な土器の出土も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分高いものと考えられる。

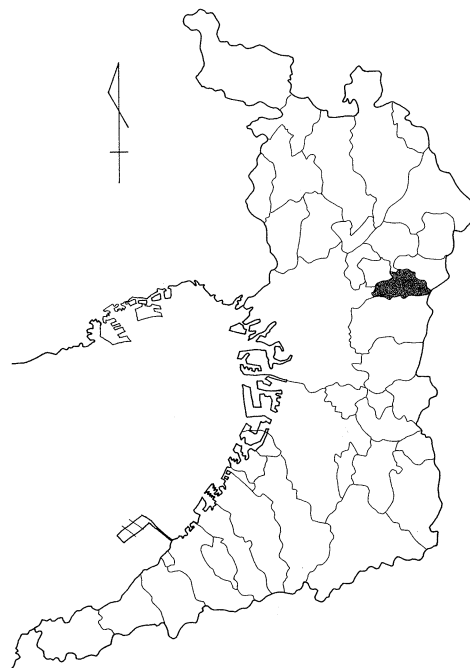
〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地理的状況からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鎌など多量の鉄製武器、武具類が出土していることか



第3図 大東市位置図

ら当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

〈古代〉

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡、元粉遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径1 m程の木を削り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

〈中世〉

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチヨの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

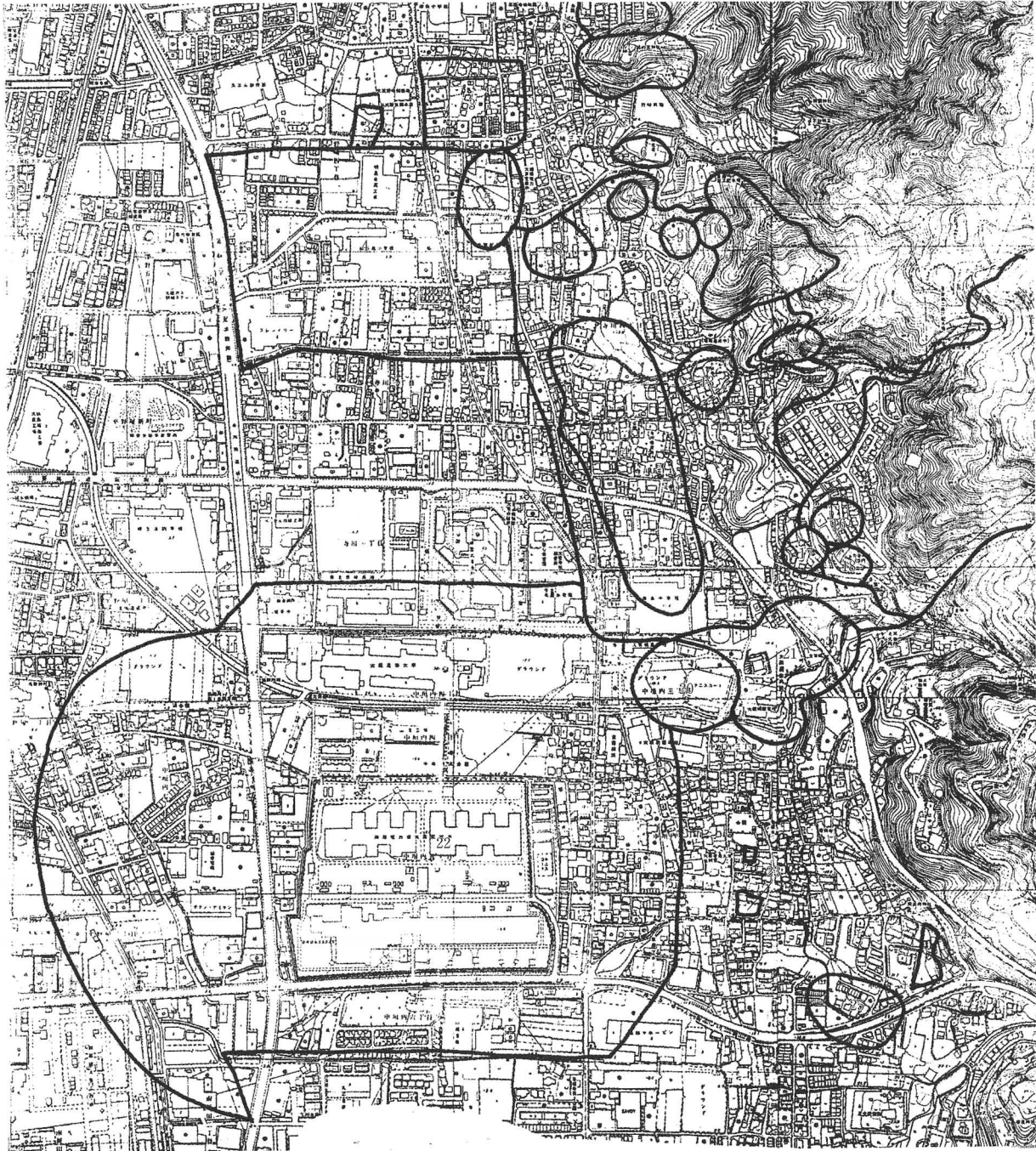
〈近世〉

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定されている遺構が検出されており、備前播鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺播鉢、石臼などの陶磁器類がまとまって出土している。

(引用・参考文献)

- 大阪府史編集専門委員会 1991年 『大阪府史』別巻 大阪府
- 大東市教育委員会 1973年 『大東市史』
- 大東市教育委員会 1987年 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集
- 大東市教育委員会 1989年 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第3集
- 大東市教育委員会 1990年 『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集
- 大東市教育委員会 1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
- 大東市教育委員会 1997年 『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集
- 大東市教育委員会 1998年 『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集
- 大東市教育委員会 1999年 『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集
- 大東市教育委員会 2000年 『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集
- 大東市教育委員会 2002年 『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書
- 大東市教育委員会 2004年 『元粉遺跡Ⅰ』大東市埋蔵文化財調査報告第19集
- 大東市教育委員会 2004年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集
- 大東市北新町遺跡調査会 1986年 『北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1991年 『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1997年 『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』
- 大阪府教育委員会 1993・1994年 『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯
- 中達健一 1995年 「大東市・北条西遺跡(93・1次調査)」 『まんだ』第五十六号
- 黒田淳 1988年 「大東市“宮谷古墳群の調査”」 『まんだ』第三十五号



- | | | | |
|--------------|---------------|----------------|-----------|
| 1 福連寺古墳 | 8 瓦堂遺跡 | 14 寺川古墳群 | 21 鍋田川遺跡 |
| 2 福連寺遺跡 | 9 堂山下古墳 | 15 寺川遺跡 | 22 中垣内遺跡 |
| 3 野崎糸里遺跡 | 10 堂山上遺跡 | 16 城の越上の段古墳 | 23 中垣内東遺跡 |
| 4 寺川浜遺跡 | 11 堂山古墳群 1号墳 | 17 城の越古墳 | 24 若宮東遺跡 |
| 5 メノコ遺跡 | 堂山古墳群 2号墳～8号墳 | 18 大谷神社古墳 | 25 若宮遺跡 |
| 6 峯垣内遺跡 | 12 六地藏古墳 | 19 大谷古墳群 | |
| 7 市水道寺川配水場古墳 | 13 十林寺古墳 | モトコ
20 元粉遺跡 | |

第4図 周辺遺跡分布図

第3章 調査の方法

今回の調査区は既設の鉄塔の撤去と併行して大型の鉄塔を設置する工法によるため、調査時においては既設の鉄塔が残される状況であった。その状況から派生する諸事情のため、鉄塔拡幅部分については3ヶ所に分断されることになり、鉄塔の3ヶ所の部分をそれぞれA区、B区、C区とした。

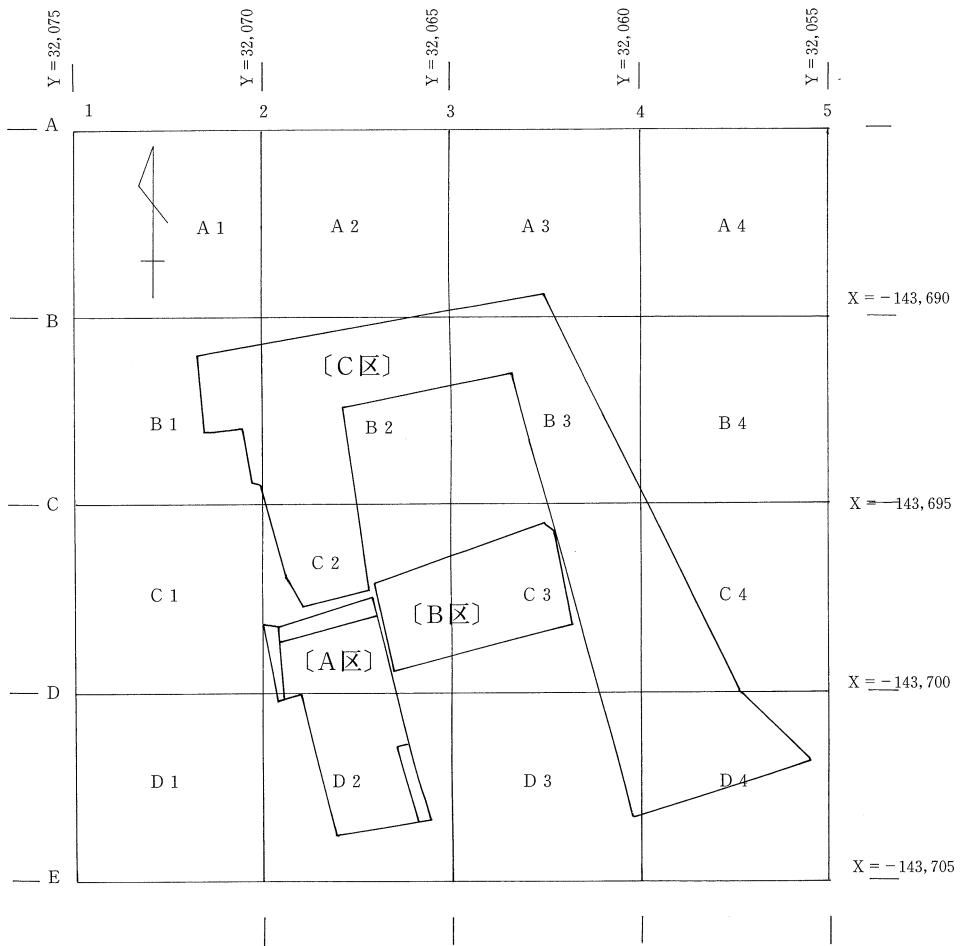
掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、送電線等が走ることからクレーン、ヘリコプターなどによる空中写真測量は不可能であったため、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。

調査区の区割り設定については、調査区付近においてA、B、C区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第VI系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ5mごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に5m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点として算用数字を順次付し、また東西座標軸については北端を起点としてアルファベットを順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている(第5図)。また、水準についてはT.P.(東京湾標準潮位)を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれに基づき、また報告書の記述においても同様である。

遺構番号については調査区毎、および遺構検出面ごとに付与しており、それらの各区名、各遺構面を示す数字を遺構番号の頭に冠している。

写真撮影については6×7の中型カメラによるモノクロ撮影、35mm小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている。



第5図 調査区区割図

第4章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査ではA区で5面、B区で1面、C区で3面の遺構面を層位的に確認した。基本的な層序については以下の通りである。

[A区]

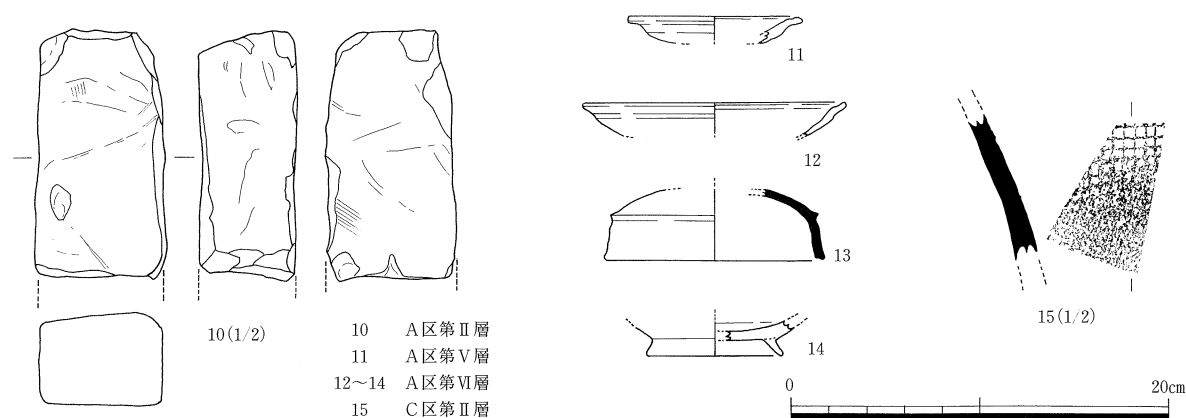
- 第I層 盛土。層厚は約1.0mを測る。
- 第II層 暗褐灰色土。層厚は約0.2mを測る。第1遺構面のベース層。
- 第III層 灰褐色土。層厚は約0.2~0.3mを測る。
- 第IV層 灰色土。層厚は約0.1mを測る。第2遺構面のベース層。
- 第V層 暗灰色粘質土。層厚は約0.2~0.3mを測る。第2遺構面のベース層。
- 第VI層 礫混暗灰黒色粘質土。層厚は約0.2~0.4mを測る。第3遺構面のベース層。
- 第VII層 淡灰黄色砂礫混シルト。層厚は約0.2mを測る。第4遺構面のベース層。
- 第VIII層 淡灰緑粘質シルト。層厚は約0.2~0.4mを測る。第5遺構面のベース層。地山層。

[B区]

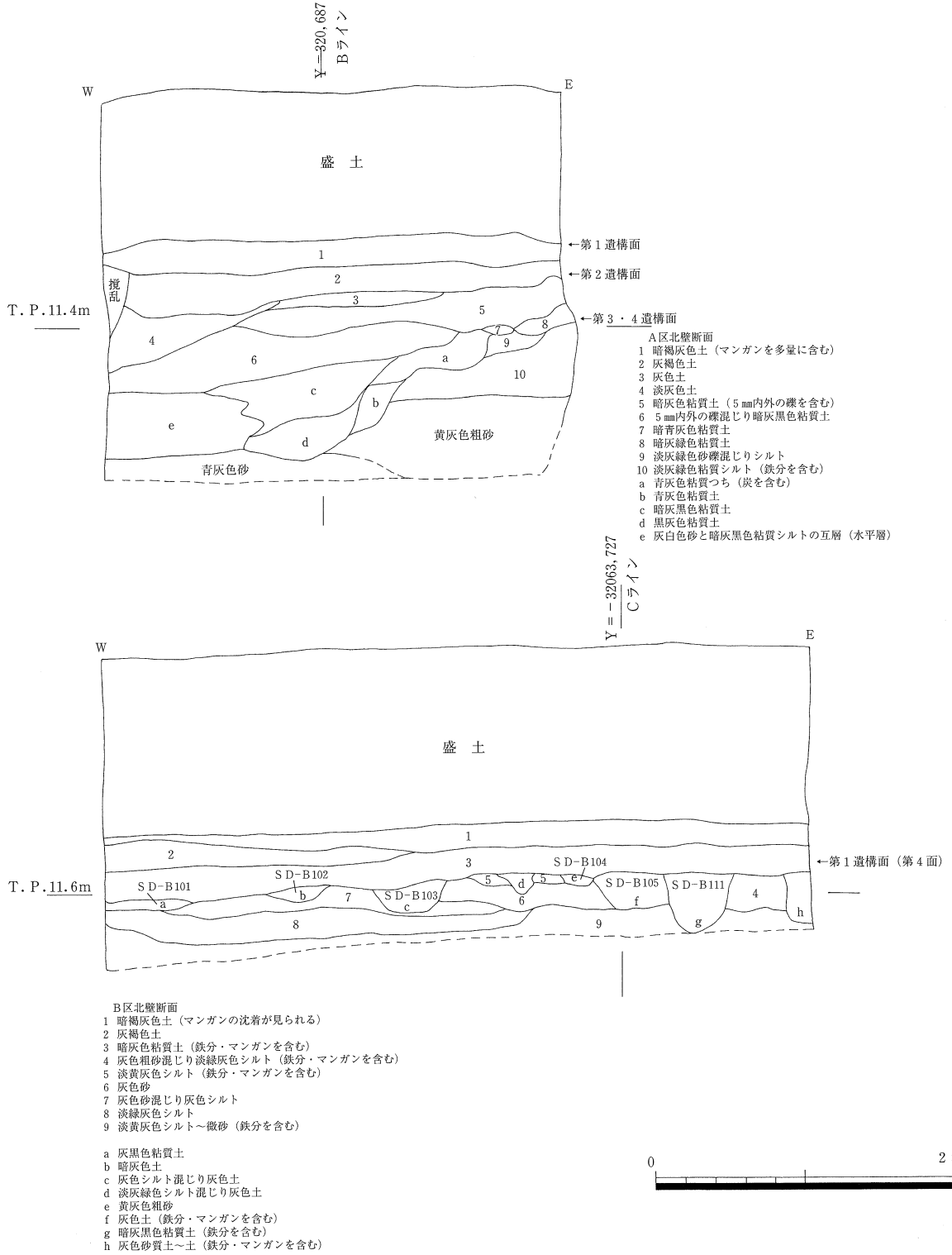
- 第I層 盛土。層厚は約1.2mを測る。
- 第II層 暗褐灰色土。層厚は約0.1~0.2mを測る。
- 第III層 灰褐色土。層厚は約0.1~0.2mを測る。
- 第IV層 暗灰色粘質土。層厚は約0.2~0.3mを測る。
- 第V層 灰色粗砂混淡緑灰色シルト。層厚は約0.3mを測る。第1遺構面のベース層。地山層。
- 第VI層 淡黄灰色シルト。層厚は約0.1mを測る。第1遺構面のベース層。地山層。
- 第VII層 灰色砂。層厚は約0.2mを測る。第1遺構面のベース層。地山層。
- 第VIII層 灰色砂混灰色シルト。層厚は約0.2mを測る。第1遺構面のベース層。地山層。

[C区]

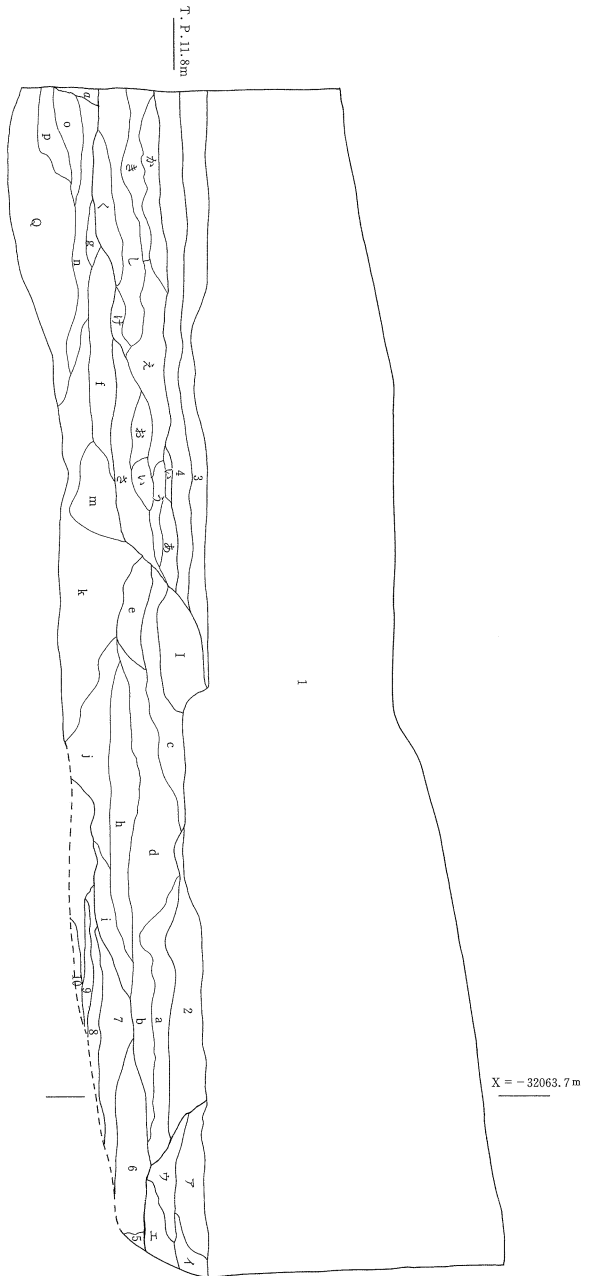
- 第I層 盛土。層厚は約1.1~2.2mを測る。
- 第II層 暗茶褐色土。層厚は約0.1~0.3mを測る。第1遺構面のベース層。
- 第III層 灰褐色土。層厚は約0.2mを測る。
- 第IV層 灰色土。層厚は約0.2mを測る。
- 第V層 暗灰色土混黄灰色粘質シルト。第2遺構面のベース層。
- 第VI層 黄灰色シルト。層厚は約0.2mを測る。第3遺構面のベース層。地山層。
- 第VII層 暗灰色粗砂。層厚は約0.3mを測る。第3遺構面のベース層。地山層。
- 第VIII層 オリーブ灰色砂。層厚は0.1~0.3を測る。第3遺構面のベース層。地山層。



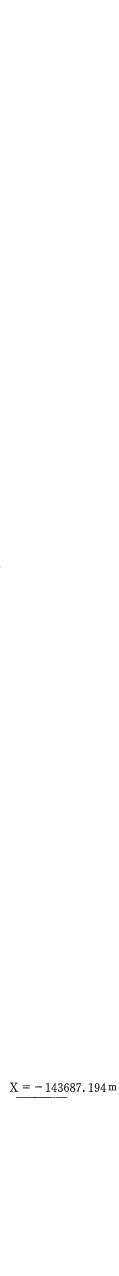
第6図 包含層等出土遺物



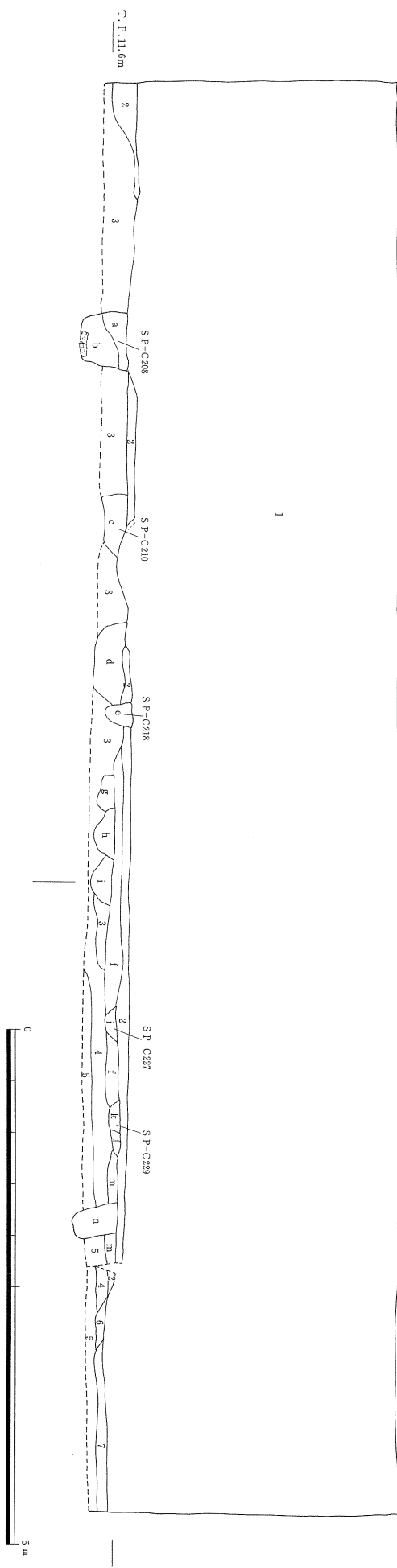
第7図 A区北壁・B区北壁断面図



- C区北壁断面
- 1 盛土
 - 2 暗茶褐色土 (5cm内外の礫を含む)
 - 3 灰褐色土 (鉄分・マンガンを含む)
 - 4 灰土 (鉄分・マンガンを含む)
 - 5 黄灰色シルト
 - 6 暗灰色粗砂
 - 7 オリーブ灰色砂
 - 8 黄灰色粗砂
 - 9 オリーブ灰色粘質シルト
 - 10 暗褐色粗砂
 - 11 暗褐色粘質シルト
 - a 灰褐色土 (?)
 - b 暗灰黄色粘じり暗灰色土
 - c 暗灰黄色土 (5cm内外の砂礫を含む)
 - d 灰黄色粘じり黄灰色粘質土
 - e 暗灰褐色粘質土
 - f 暗灰褐色粘質土
 - g 暗灰褐色粘質土
 - h 灰白色粘質土
 - i 暗灰黄色粘質土
 - j 暗灰黄色粘質土と暗灰色粘質土との混合層
 - k 黄灰色シルトと黄灰色粘質シルトと黄灰色との混合層 (灰白色を含む)
 - l 暗灰褐色粘質土
 - m 暗灰褐色粘質土
 - n 黄灰色粘質土
 - o 暗灰褐色粘質土
 - p 黄灰色粘質土
 - q 黄灰色粘質土



- C区東壁断面
- 1 盛土
 - 2 暗茶褐色土 (5cm内外の礫を含む)
 - 3 暗灰色土塊 (黄灰色粘質シルト)
 - 4 鉄分を含む暗灰色粘質土 (マンガン)
 - 5 黄灰色粘質シルト (鉄分を含む)
 - 6 暗灰褐色粘質シルト
 - 7 砂礫混じり灰褐色土 (鉄分を含む)
 - a 暗褐色灰褐色土
 - b 灰褐色土塊 (黄灰色粘質土)
 - c 暗灰褐色土
 - d 灰黄色粘質土
 - e 暗灰褐色粘質土
 - f 灰褐色粘質土 (鉄分を含む)
 - g 暗灰褐色粘質土 (鉄分を含む)
 - h 灰褐色粘質土 (鉄分を含む)
 - i 暗灰褐色粘質土 (鉄分を含む)
 - j 暗灰褐色粘質土
 - k 黄灰色粘質土
 - l 暗灰褐色粘質土
 - m 黄灰色粘質土
 - n 黄灰色粘質土



第8図 C区北壁・東壁断面図

第2節 第1遺構面

調査成果において述べる遺構面の設定、呼称についてはA・B・C区の各成果を層位的に判断し、調査区全体として把握、設定したものである。以下、第5遺構面まで同様である。

第1遺構面はA区第1遺構面、C区第1遺構面で形成され、溝、土坑、鋤溝、近世水路を検出している。標高はA区でT.P. +11.6m、C区でT.P. +11.9mを測る

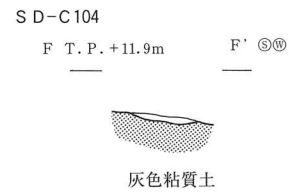
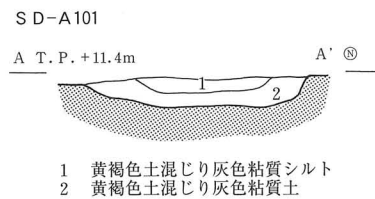
[A区]

SD-A101

D2区で検出した。規模は幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層で黄褐色土混灰色粘質シルト、黄褐色土混灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、染付磁器が出土している。

近世水路

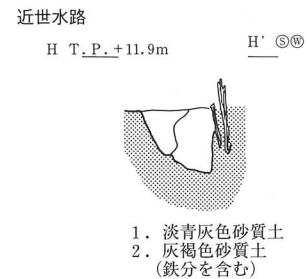
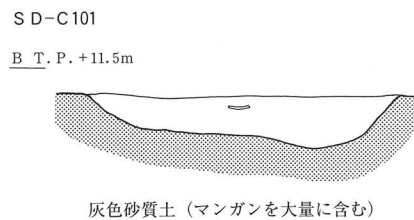
C2～D2区にかけて検出した。杭列がわずかに残されていた。



[C区]

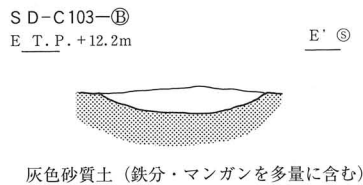
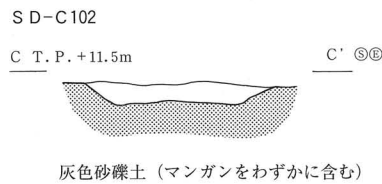
SD-C101

B2～C2区にかけて検出した。規模は幅約1.6m、深さ約0.2～0.3mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は瓦が出土している。



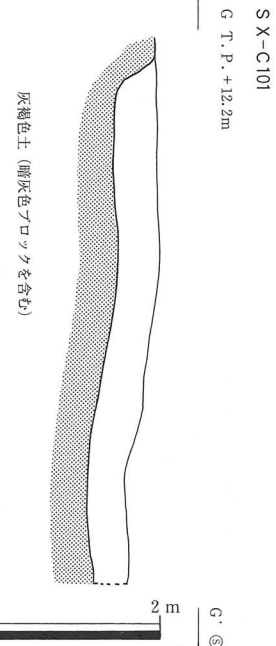
SD-C102

B1～2区にかけて検出した。規模は幅約0.95m、深さ約0.2mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器が出土している。

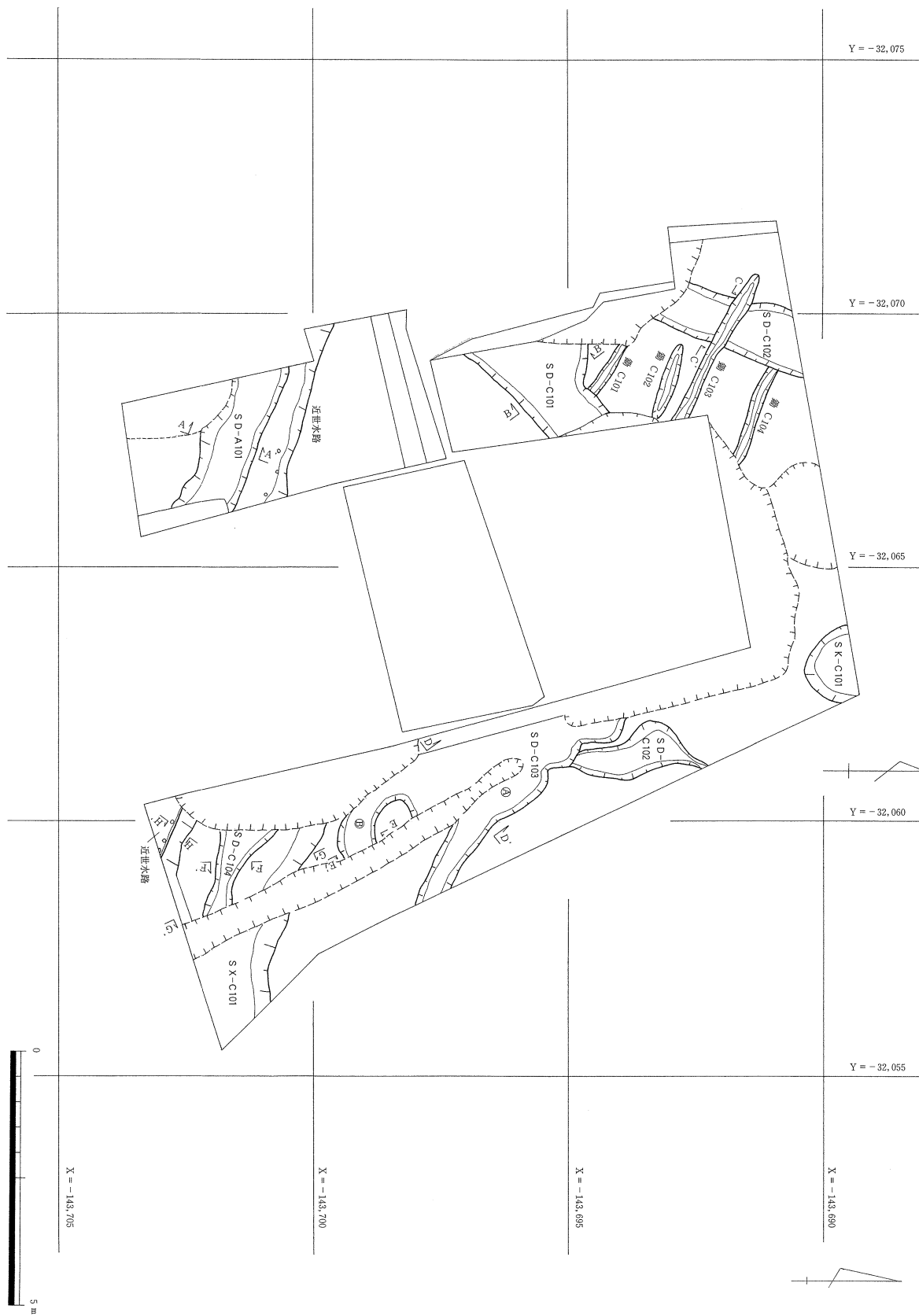


SD-C103

B3、C3～4区にかけて検出した。規模は深さ約0.1～0.2mを測る。埋土は1層で灰色砂質土



第9図 第1遺構面各遺構断面図



第10图 第1遺構面全体図

である。遺物は土師器、須恵器、瓦器が出土している。

SD-C104

D4区で検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.04mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

SK-C101

A3～B3区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さ約0.5mを測る。埋土は4層で淡灰青色砂質土、灰褐色土、暗灰褐色土、黄色砂礫混暗褐色土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

SK-C102

B3で検出した。形態は不定形を呈し、規模は長径約2.6m、短径約1.0mを測る。埋土は1層で灰褐色である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類が出土している。

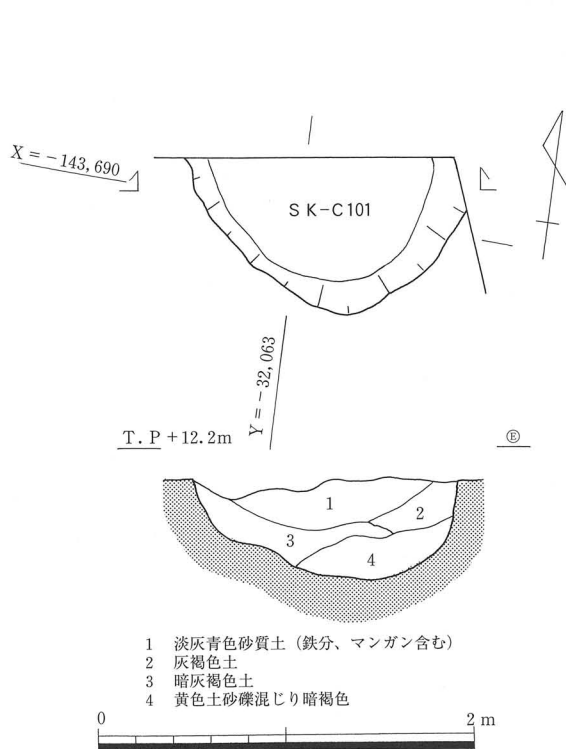
鋤溝C101

B2区で検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.15mを測る。遺物は出土していない。

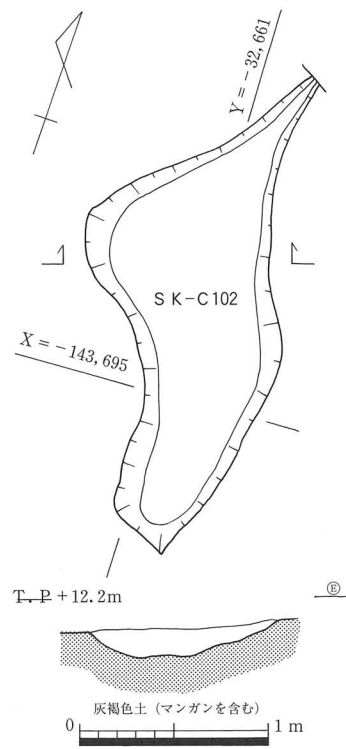
鋤溝C102

D1～2区にかけて検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.04mを測る。遺物は土師器が出土している。

鋤溝C103



第11図 SK-C101平・断面図



第12図 SK-C102平・断面図

C 3区で検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.15mを測る。遺物は出土していない。

鋤溝 C104

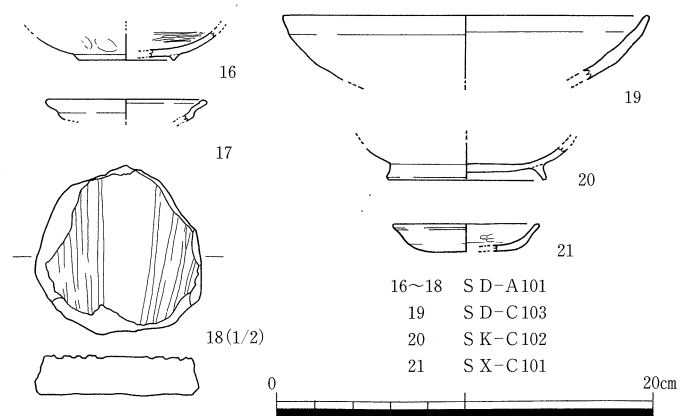
D 3区で検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.07mを測る。遺物は出土していない。

S X-C101

C 4～D 4区にかけて検出した。調査区外に広がるため規模は明らかでないが、深さ約0.2mを測る埋土は1層で灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器B類、瓦が出土している。

近世水路

D 3～4区にかけて検出した。A区の近世水路に繋がるもので、同様に杭列の他、矢板材も残されていた。埋土は2層で淡青灰色砂質土、灰褐色砂質土である。遺物は出土していない。



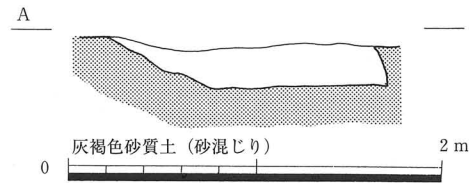
第13図 第1遺構面出土遺物

第3節 第2遺構面

第2遺構面はA区第2遺構面で形成され、溝を検出している。標高はA区でT. P. +11.48mを測る
[A区]

SD-A201

C2～D2区にかけて検出した。規模は幅約1.4m、深さ約0.2mを測る。埋土は1層で灰褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、黑色土器B類、瓦器、瓦が出土している。



第14図 SD-A201断面図 A' T. P. 11.5m



第15図 第2遺構面全体図

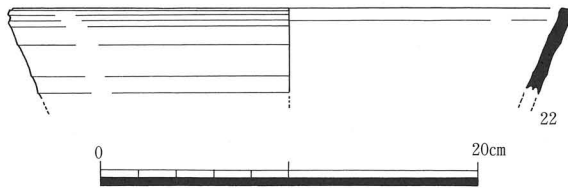
第4節 第3遺構面

第3遺構面はA区第3遺構面で形成され、土坑を検出している。標高はA区でT. P. +11.3mを測る

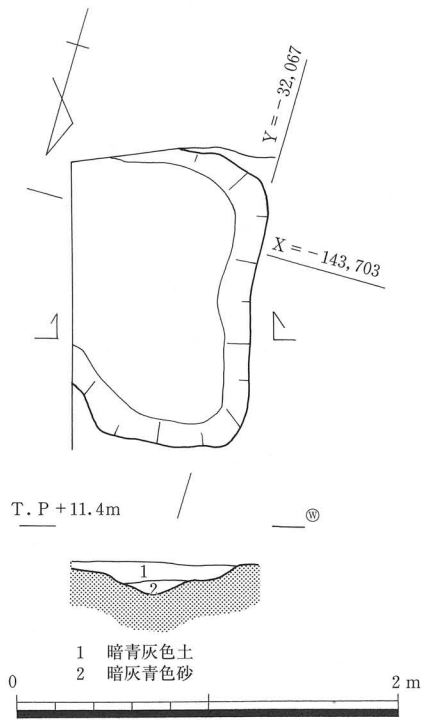
[A区]

SK-A201

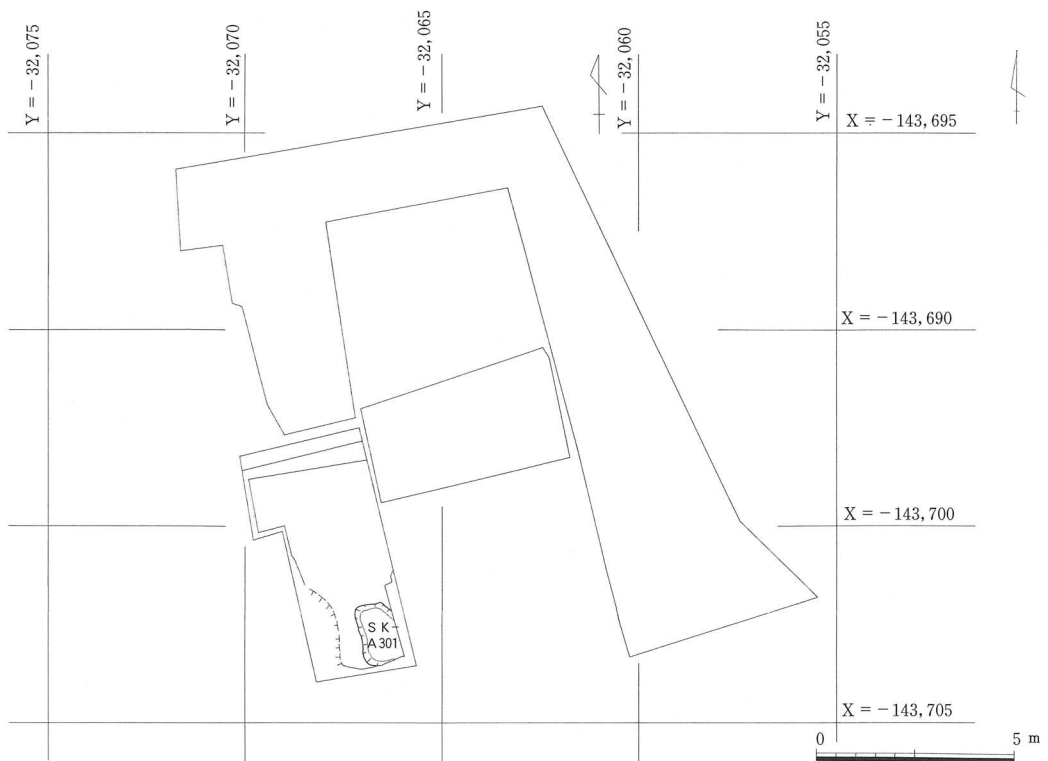
D2区で検出した。形態・規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さは約0.16mを測る。埋土は2層で暗青灰色土、暗灰青色砂である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類が出土している。



第17図 SK-A301出土遺物



第16図 SK-A301平・断面図



第18図 第3遺構面全体図

第5節 第4遺構面

第4遺構面はA区第4遺構面、B区第1遺構面、C区第2遺構面で形成され、溝、土坑、ピット、落込状遺構を検出している。標高はA区でT. P. +11.0m、B区でT. P. +11.6m、C区でT. P. +11.6mを測る

[A区]

SK-A401

D2区で検出した。形態・規模はSP-A405に切られているため明らかでない。埋土は1層で暗灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類、骨片が出土している。

ピット群 (SP)

7基を検出した。形態は概ね円形をなし、規模は径約0.4m、深さ約0.2m程度が主体をなす。また埋土については黒色土～粘質土が主体をなしている。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類、製塩土器、瓦片などが出土している。尚、SP-A405、A406には根石が残されていた。

SX-A401

C2～D2区で検出した。北西に向けて落込んでいく。埋土は5層で青灰色粘質土、青灰色粘質シルト、暗灰黒色粘質土、黒灰色粘質土、灰白色砂と暗灰黒色粘質シルトの互層である。遺物はまとめて出土しており、土師器、須恵器、黒色土器A類、灰釉陶器、瓦、土製品、砥石、骨片などが出土している。

SX-A402

D2区で検出した。南西に向けて落込んでいく。埋土は4層でにぶい灰緑色砂質土、暗灰色粘質シルト、暗オリーブ灰色砂質土、暗灰色粗砂、暗褐色シルト混暗灰色粘質シルトである。遺物は土師器、サヌカイトが出土している。

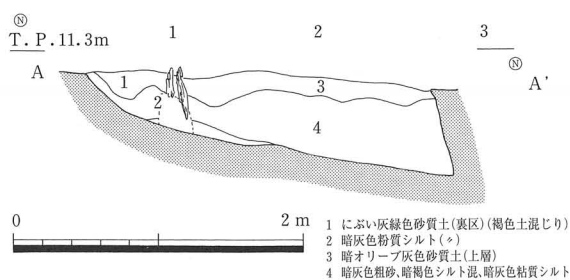
[B区]

SD-B101

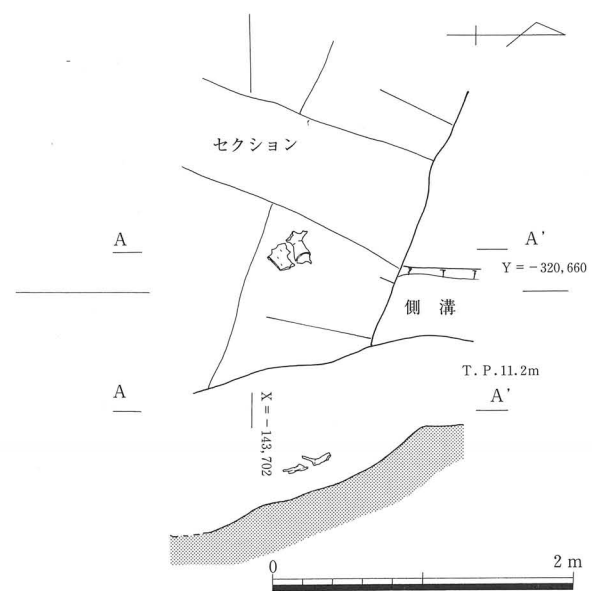
C2区で検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で灰黒色粘質土である。遺物は土師器、黒色土器B類が出土している。

SD-B102

C2区で検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。



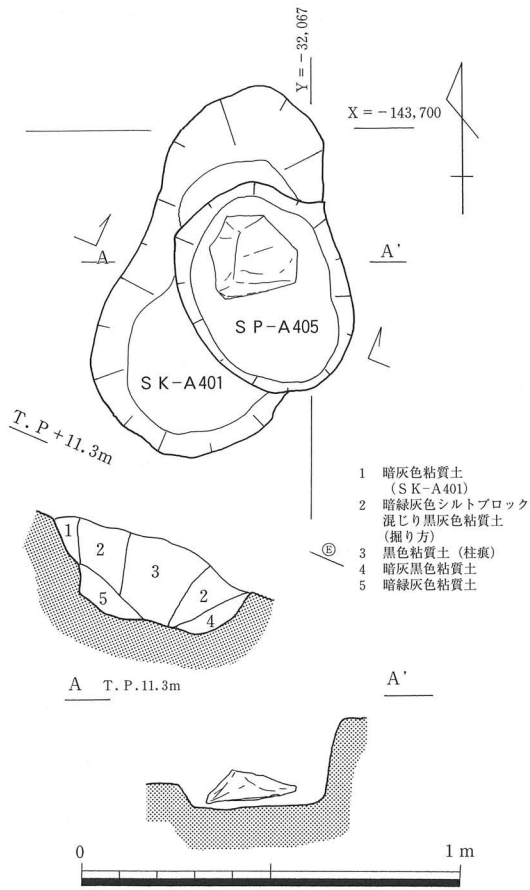
第19図 SX-A402断面図



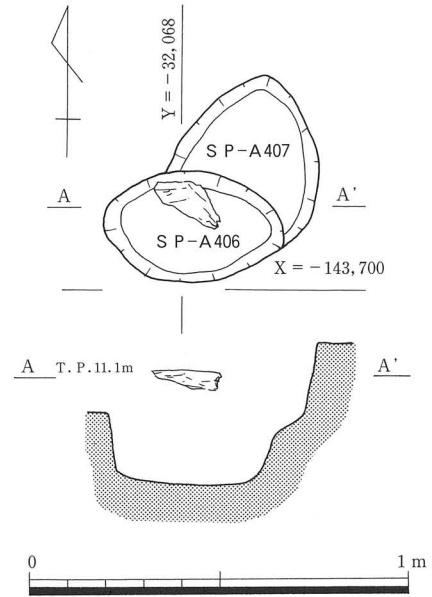
第20図 SX-A402遺物出土状況図



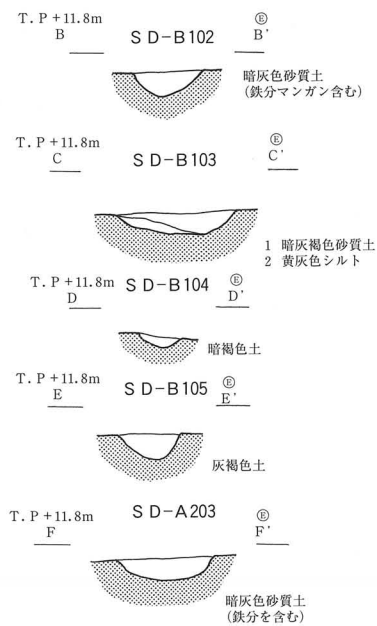
第21図 第4遺構面全体図



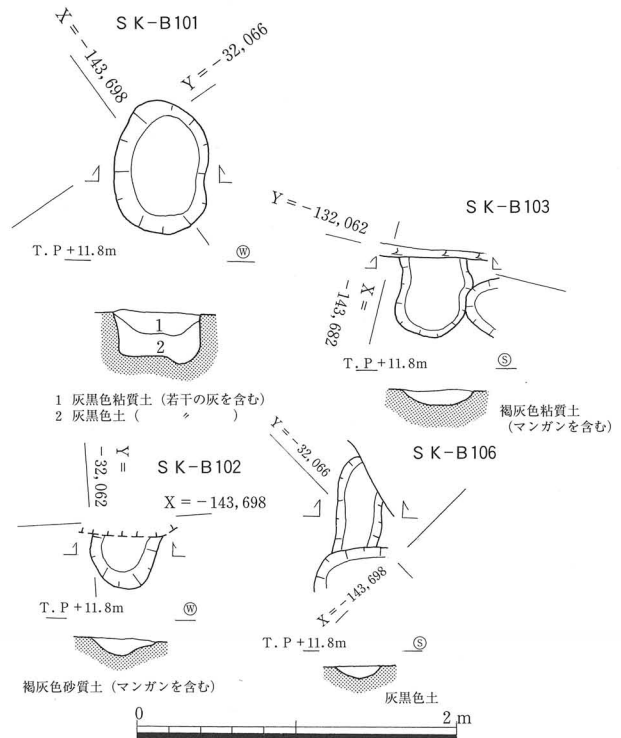
第22図 SP-A405平・断・根石出土状況図



第23図 SP-A406平・根石出土状況図



第24図 各SD断面図



第25図 B区各SK平・断面図

S D-B103

C 2～C 3区にかけて検出した。規模は幅約0.55m、深さ約0.1mを測る。埋土は2層で暗灰褐色砂質土、黄灰色シルトである。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類、瓦器、瓦が出土している。

S D-B104

C 3区で検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。埋土は1層で灰褐色土である。遺物は須恵器が出土している。

S D-B105

C 3区で検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.15mを測る。埋土は1層で茶褐色土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

S K-B101

C 2区で検出した。形態はほぼ楕円形を呈し、規模は長径約0.8m、短径約0.6m、深さ約0.3mを測る。埋土は2層で灰黒色粘質土、灰黒色土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類が出土している。

S K-B102

C 3区で検出した。形態は調査区外に広がるため明らかでないが、深さは約0.1mを測る。埋土は1層で褐灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A類が出土している。

S K-B103

C 3区で検出した。形態は調査区外に広がるため明らかでないが、深さは約0.1mを測る。埋土は1層で褐灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

S K-B106

C 2区で検出した。形態は調査区外に広がるなど明らかでないが、深さは約0.08mを測る。埋土は1層で褐黒色土である。遺物は出土していない。

ピット群 (S P)

13基を検出した。形態は概ね円形をなし、規模は径約0.3m、深さ約0.2m程度が主体をなす。また埋土については灰色系のシルト、土が主体をなしている。遺物は土師器、須恵器、黒色土器A・B類などが出土している。

[C区]

S D-C201

B 1～2区、C 2区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さ約0.5mを測る。埋土は12層で灰色系の砂質土、砂が主体をなす。遺物はまとめて出土しており土師器、須恵器、黒色土器A類、瓦器、瓦が出土している。

S D-C202

B 3区で検出した。S P-C213に切られる。規模は幅約0.25m、深さ約0.075mを測る。埋土は1層で灰色土である。遺物は出土していない。

S D-C203

C 3区で検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

S K-C201

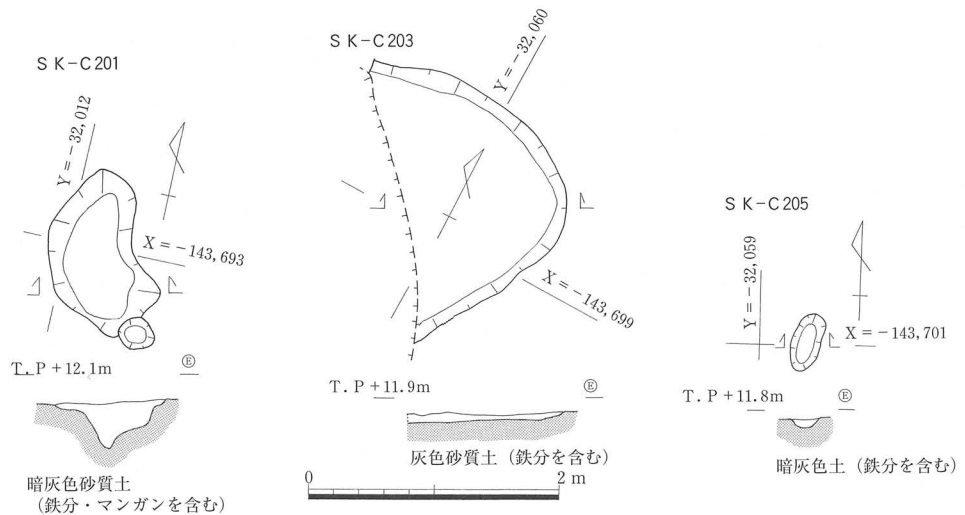
B 3区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.3m、短径約0.7m、深さ約0.35mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

SK-C202

C 3～4区、D 4区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さは約1.11mを測る。埋土は1層で灰色土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

SK-C203

C 3～4区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さは約1.1mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。



第26図 C区各SK平・断面図

C 4区で検出した。形態、規模は

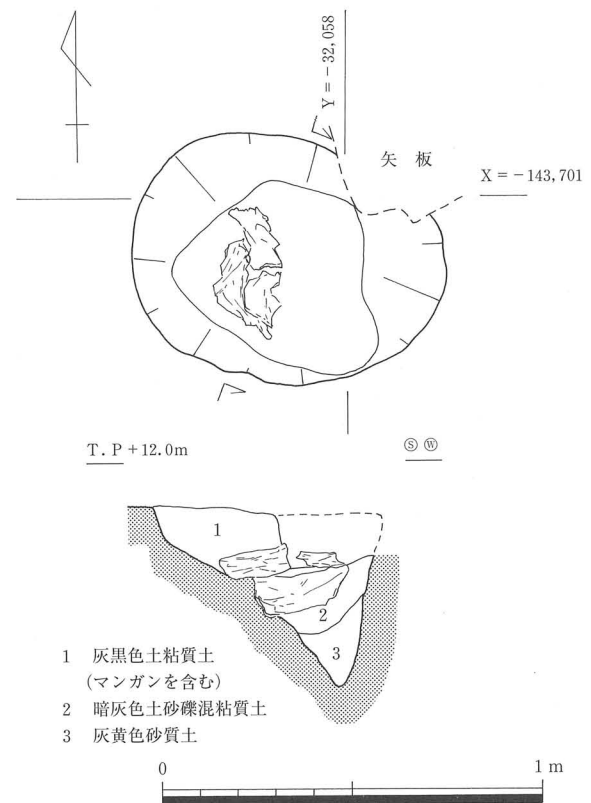
調査区外に広がるため明らかでないが、深さは約0.083mを測る。埋土は1層で暗灰褐色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-C205

D 4区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約0.5m、短径約0.25m、深さ約0.08mを測る。埋土は1層で暗灰色土である。遺物は須恵器が出土している。

ピット群 (SP)

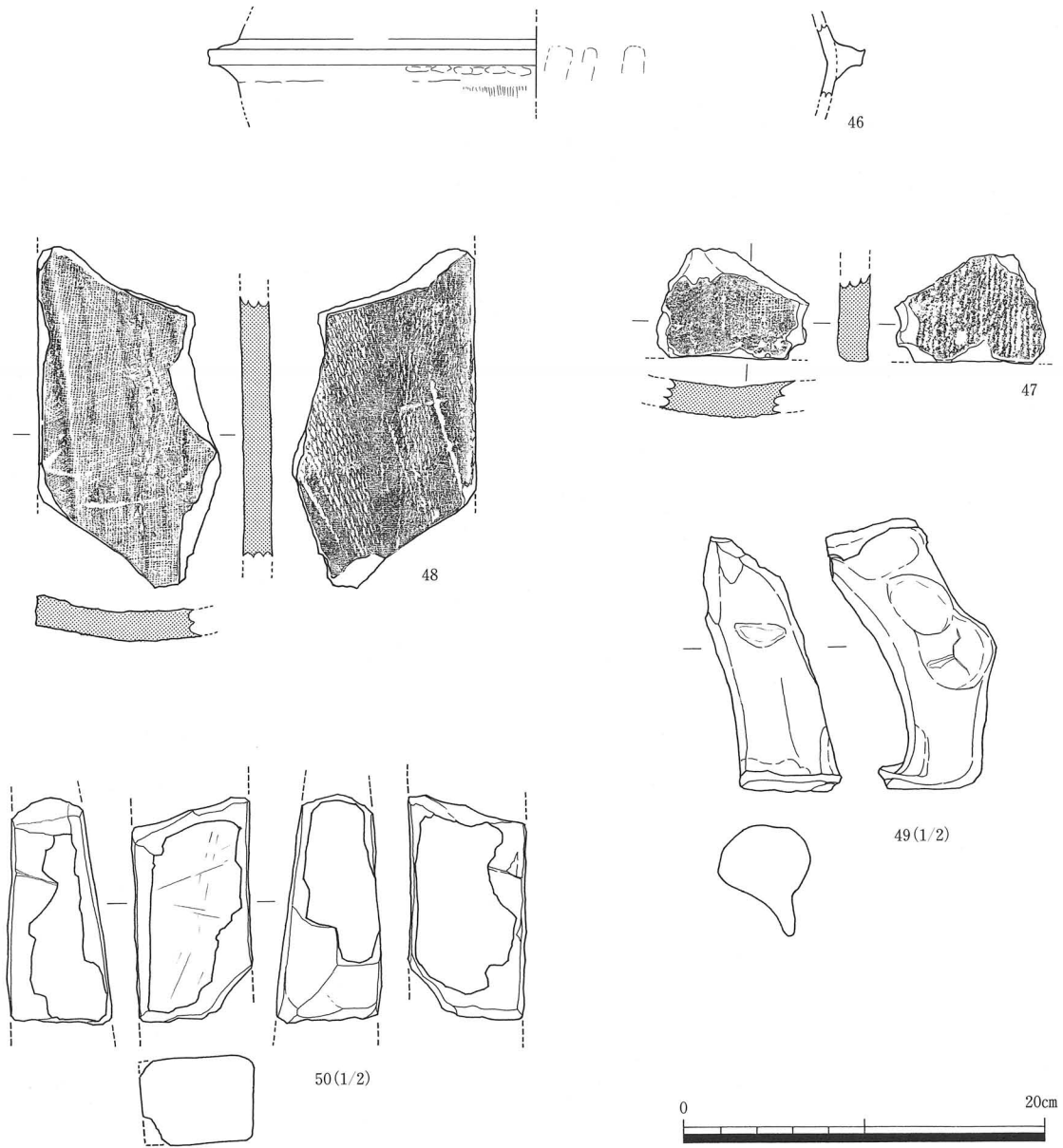
47基を検出した。形態は概ね円形をなし、規模は径約0.3～0.4m、深さ約0.1～0.2m程度が主体をなす。また埋土については灰色系の砂質土～土が主体をなしている。遺物は土師器、須恵器、製塩土器などが出土している。尚、SP-C236では根石あるいは添石と考えられるものが3点残されていた。



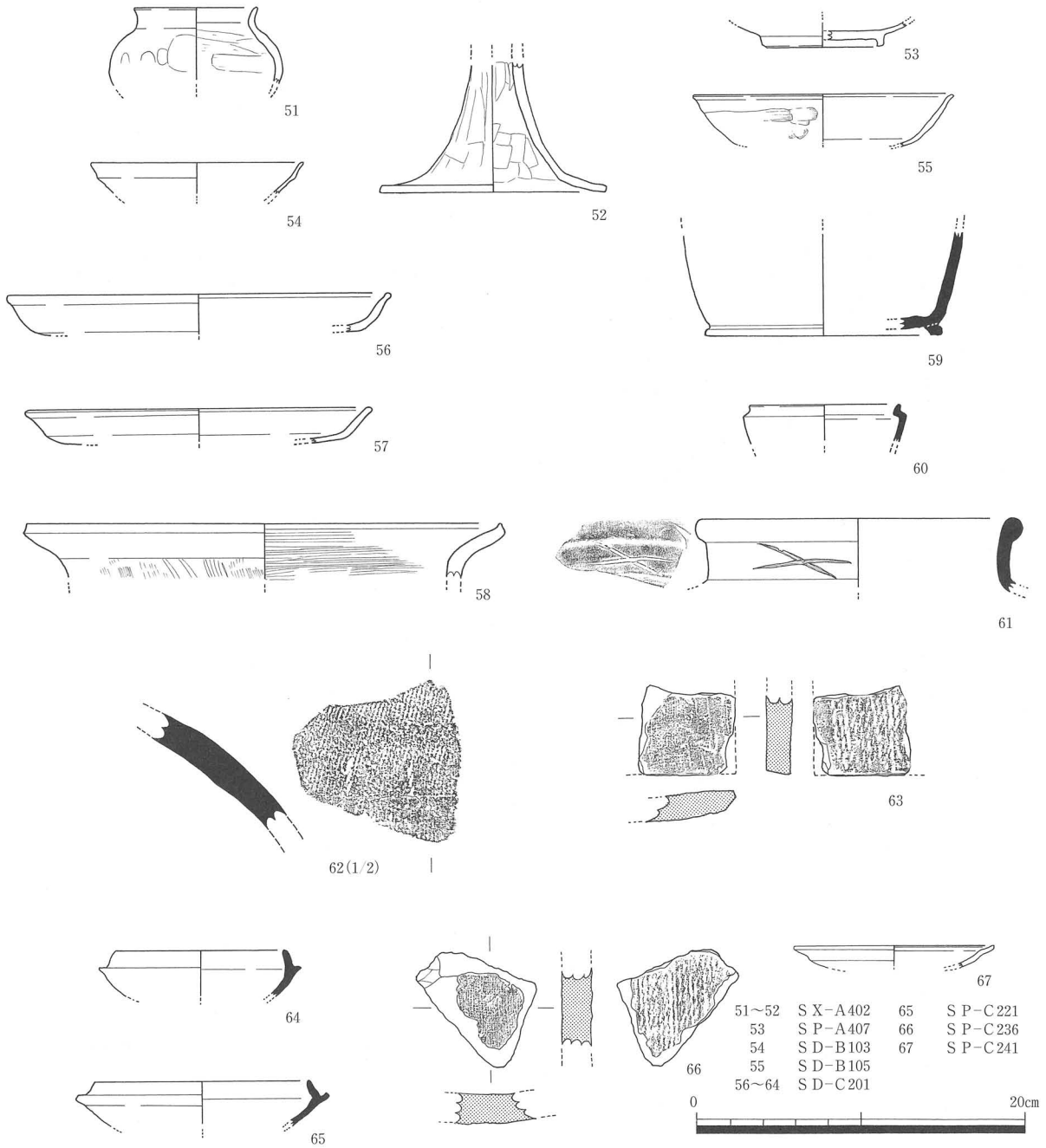
第27図 SP-C236平・断面図



第28图 S X-A 401出土遺物(1)



第29図 S X-A 401出土遺物(2)



51~52	S X-A402	65	S P-C 221
53	S P-A407	66	S P-C 236
54	S D-B103	67	S P-C 241
55	S D-B105		
56~64	S D-C 201		

第30図 第4遺構面出土遺物

第6節 第5遺構面

第5遺構面はA区第5遺構面、C区第3遺構面で形成され、溝、落込状遺構を検出している。標高はA区でT.P. +10.5m、C区でT.P. +10.9mを測る

[A区]

SK-A501

C2区で検出した。形態は不定形な楕円形で、長径約0.65m、短径約0.45m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で暗緑灰色シルトである。遺物は出土していない。

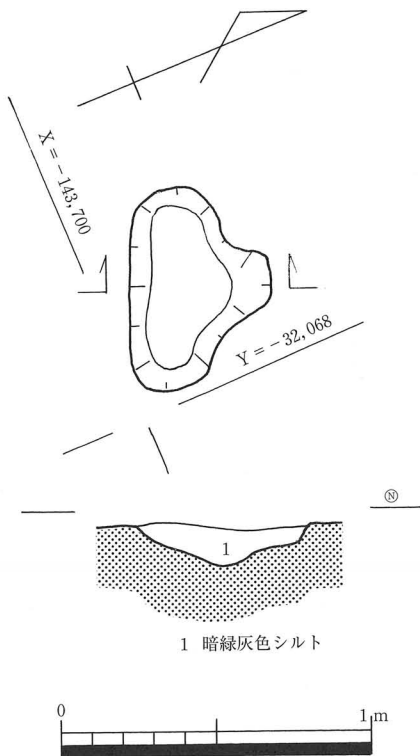
SX-A501

D2区で検出した。南西に向けて落込んでいく。埋土は2層で暗灰色粘質土、暗青灰色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

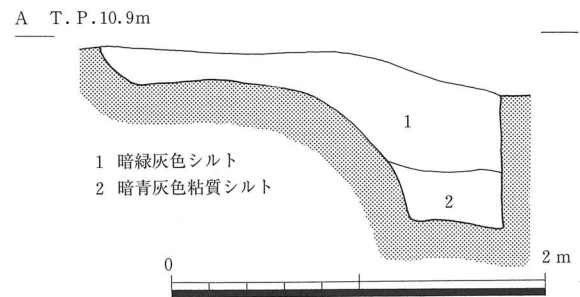
[C区]

SD-C301

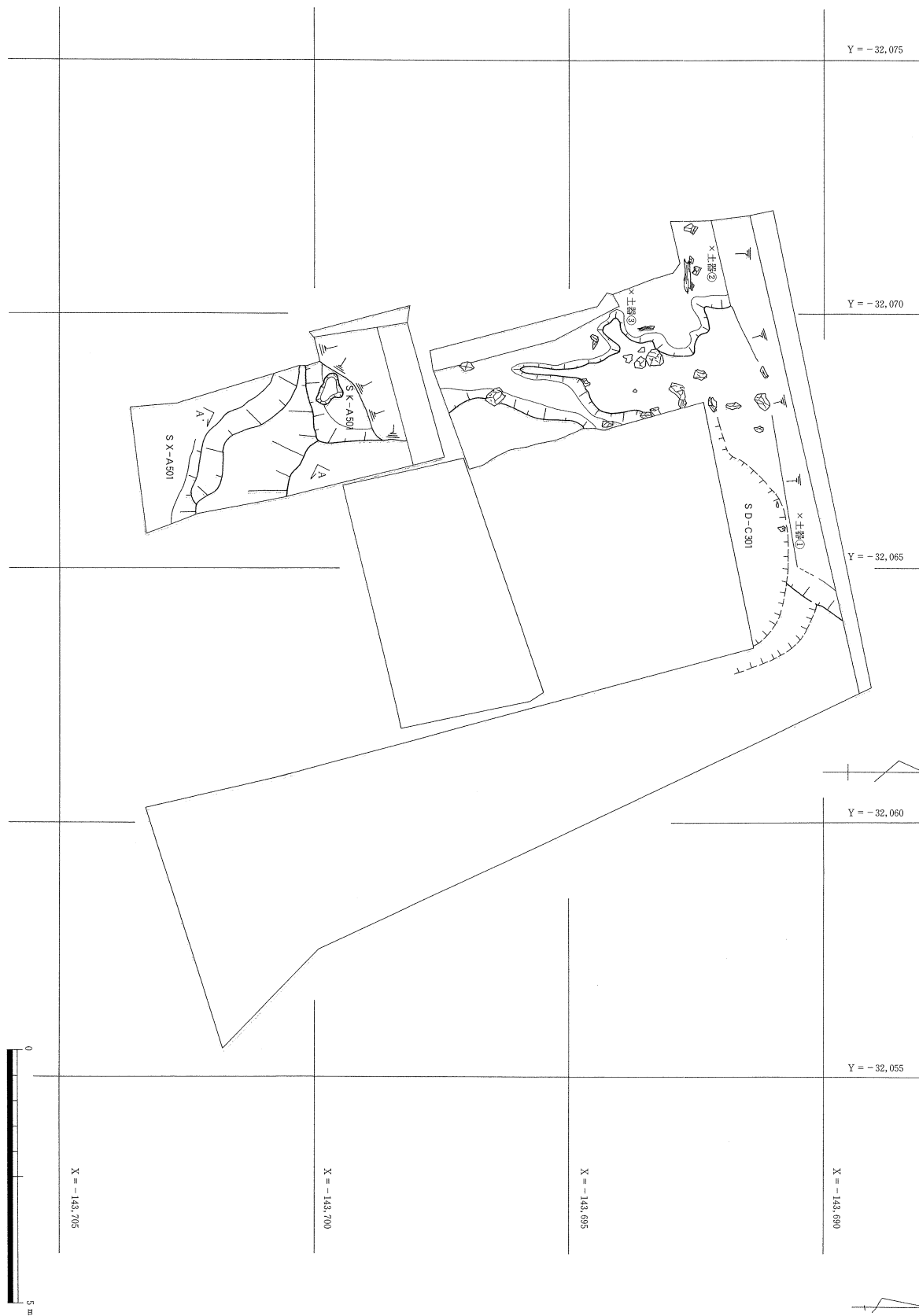
A2～3区、B1～3区、C2区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さ約1.1mを測る。埋土は16層で灰色系の砂、シルト、砂質土が主体をなす。遺物はまとまって出土しており縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器A・B類、緑釉陶器、瓦器、瓦、サヌカイトなどが出土している。また、0.1～0.2m大の礫も多く点在する状況が確認された。



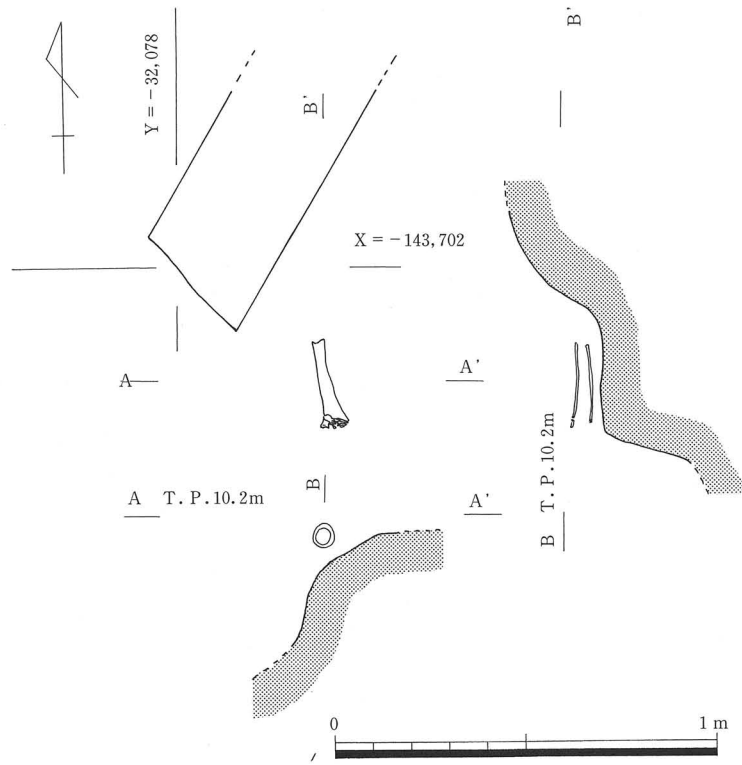
第31図 SK-A501平・断面図



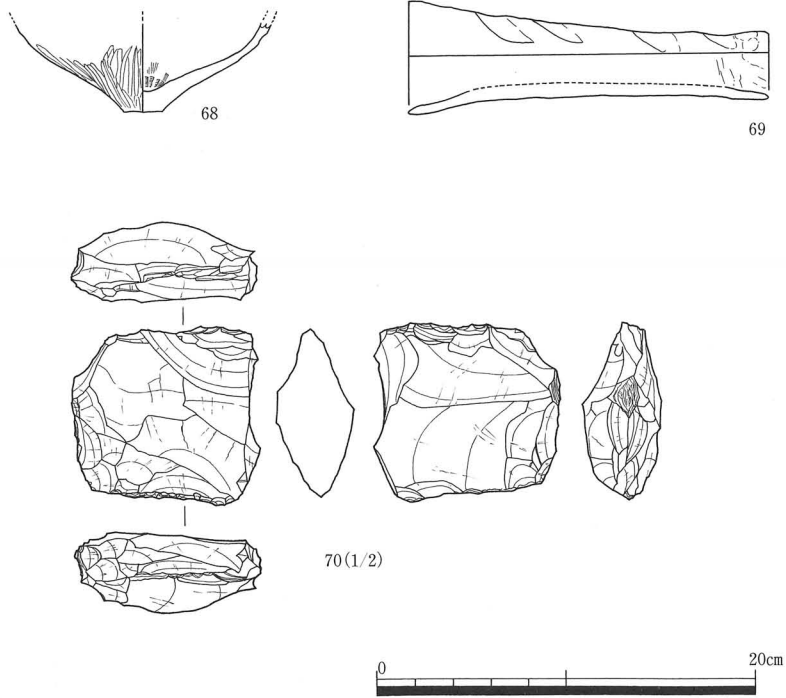
第32図 SX-A501断面図



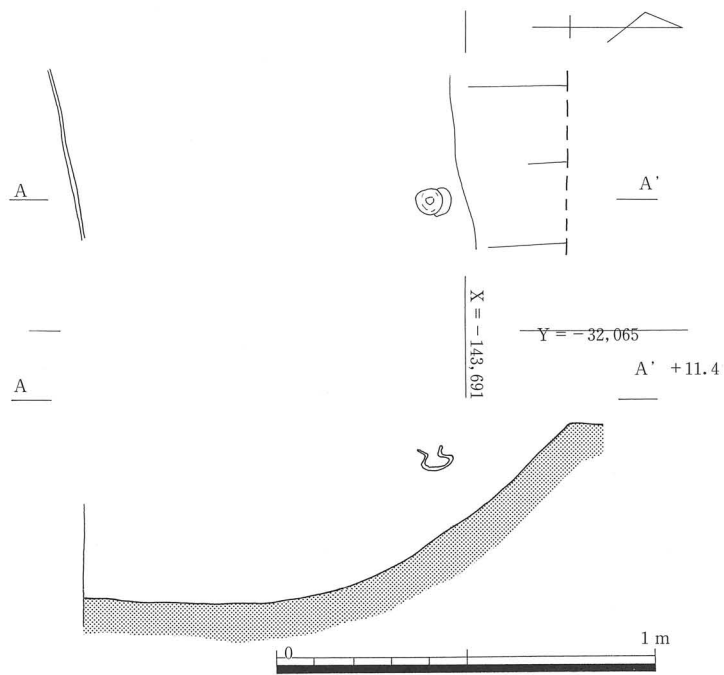
第33图 第5选構面全体图



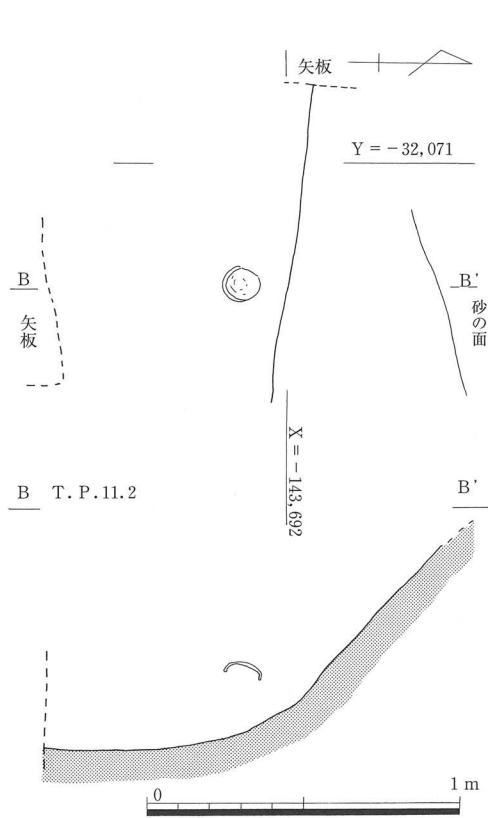
第34図 SX-A 501遺物出土状況図



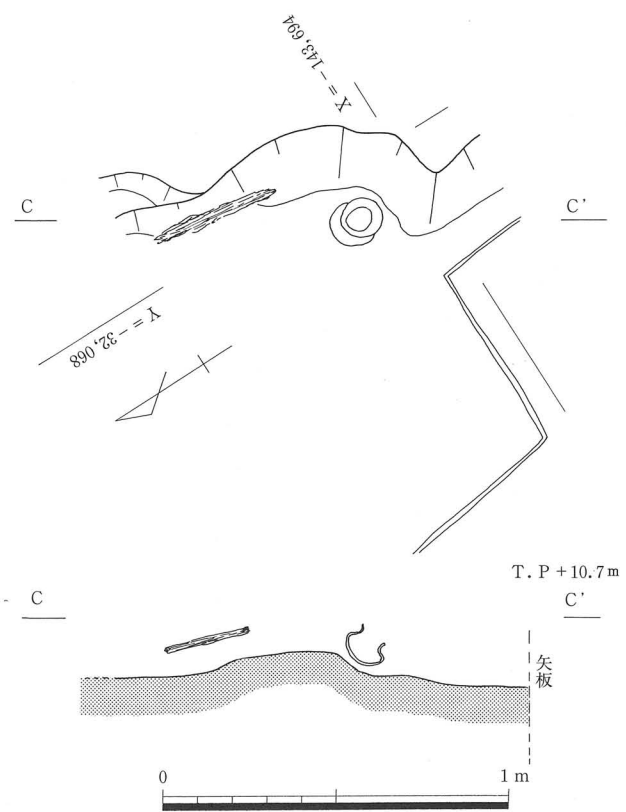
第35図 SX-A 501出土遺物



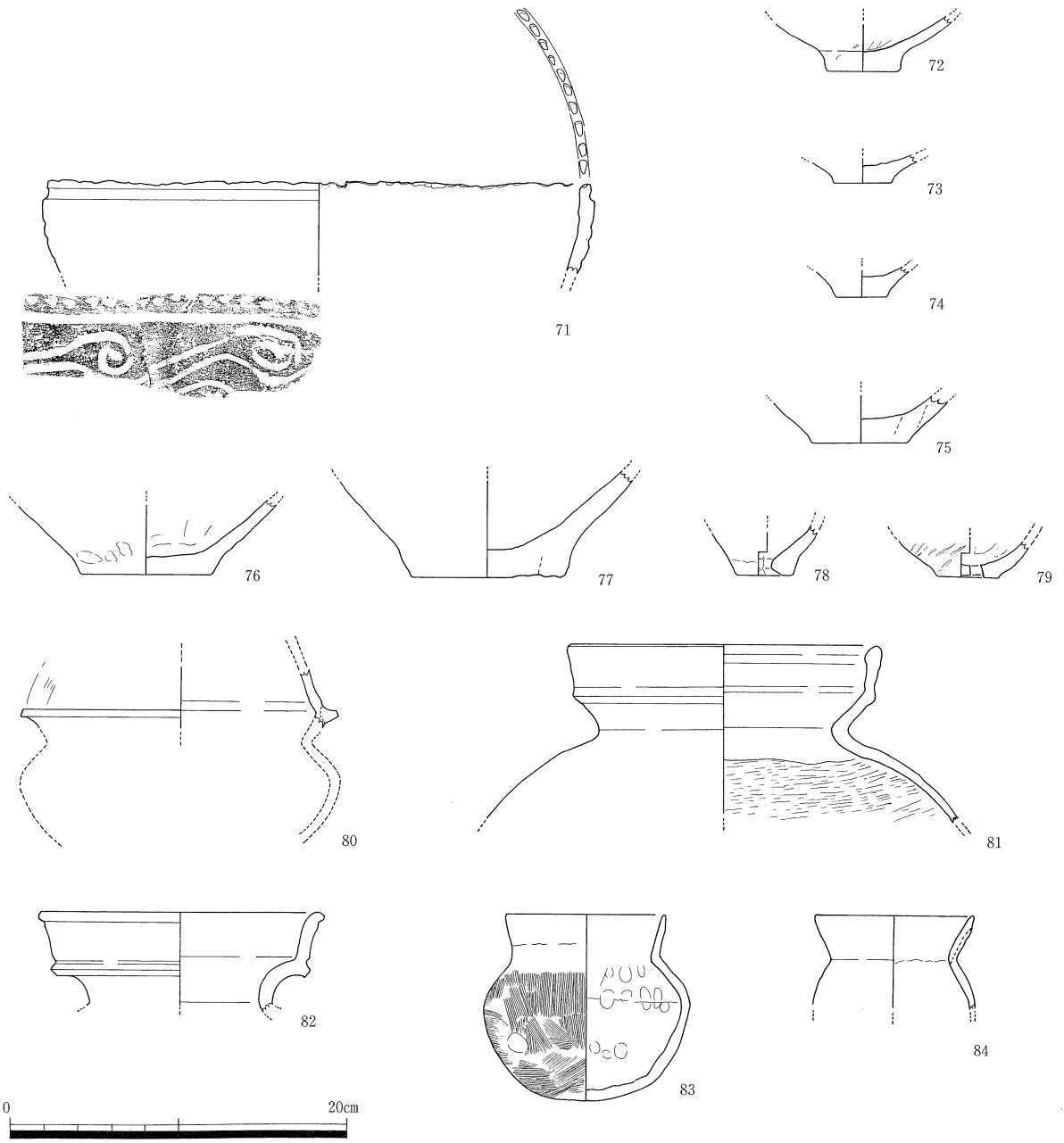
第36図 SD-C301土器①出土状況図



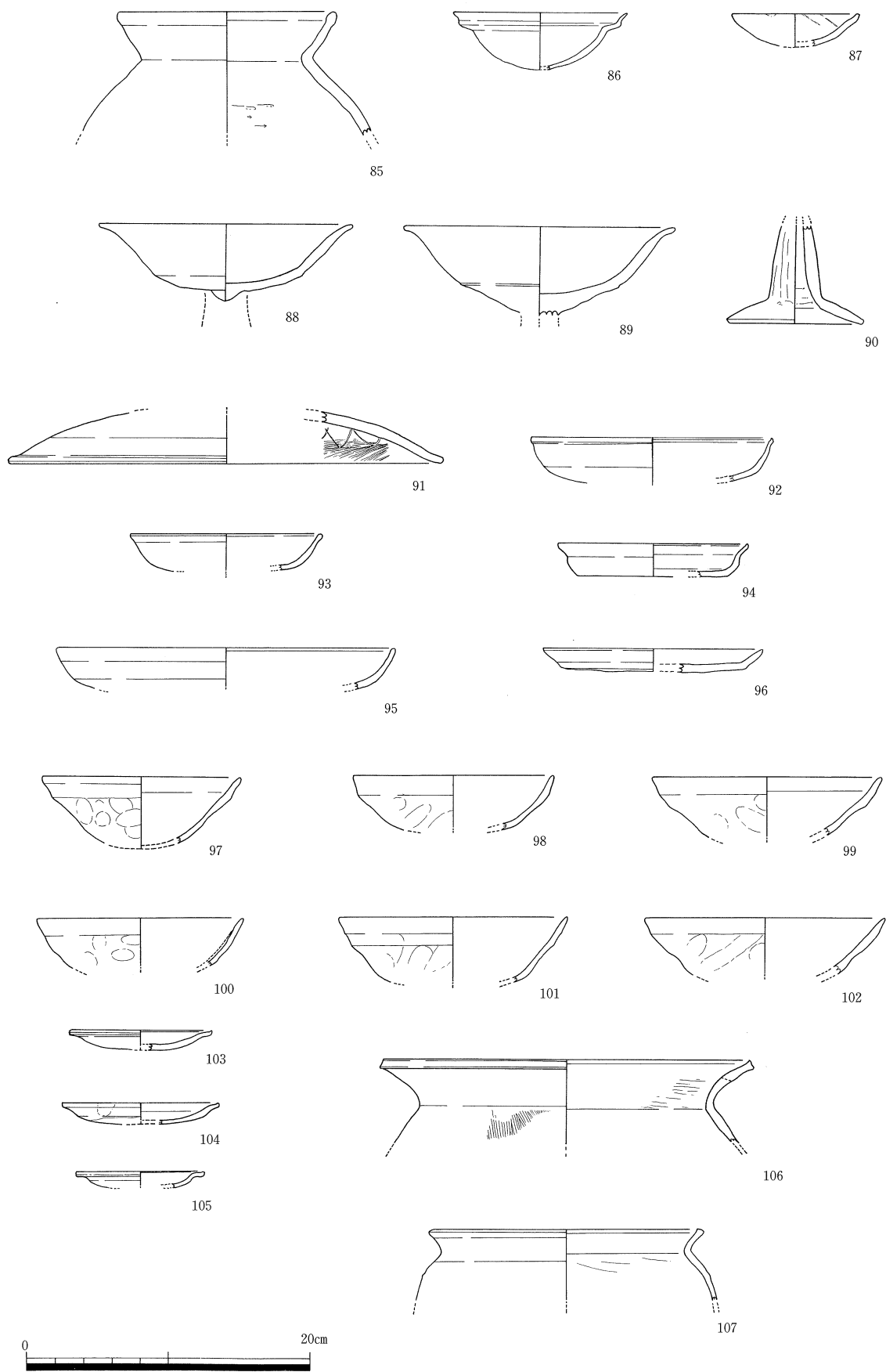
第37図 SD-C301土器②出土状況図



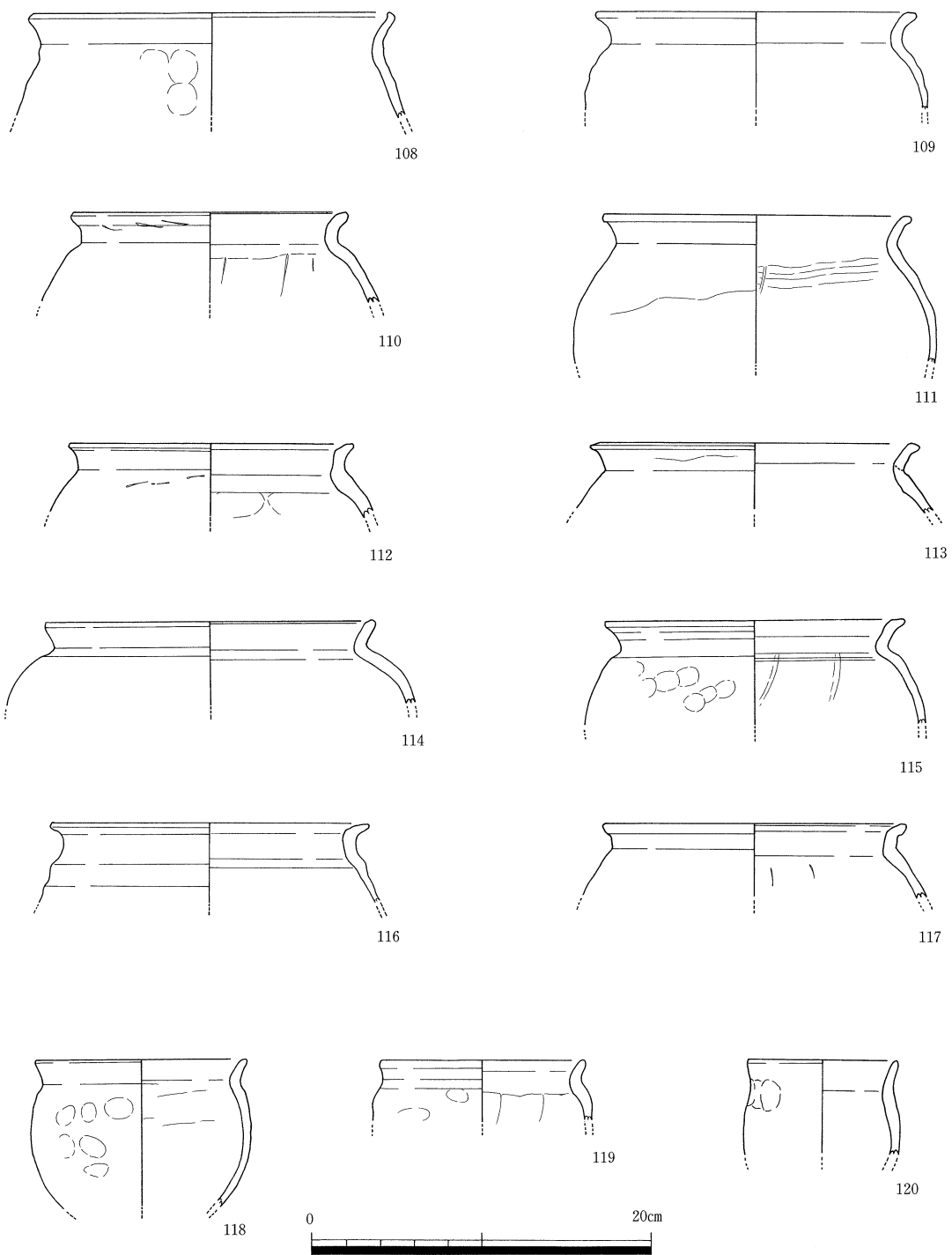
第38図 SD-C301土器③出土状況図



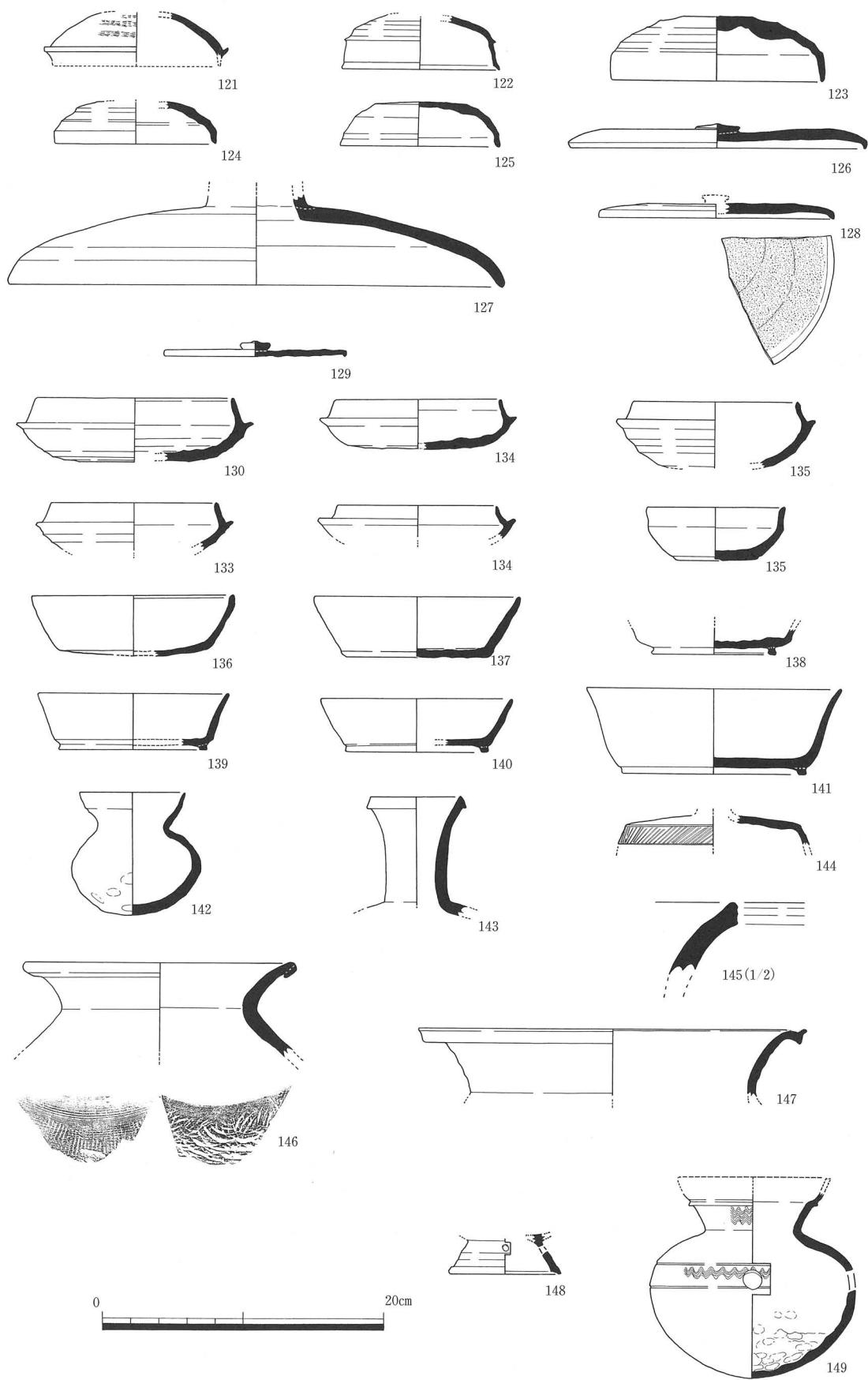
第39図 S D-C 301遺物出土遺物(1)



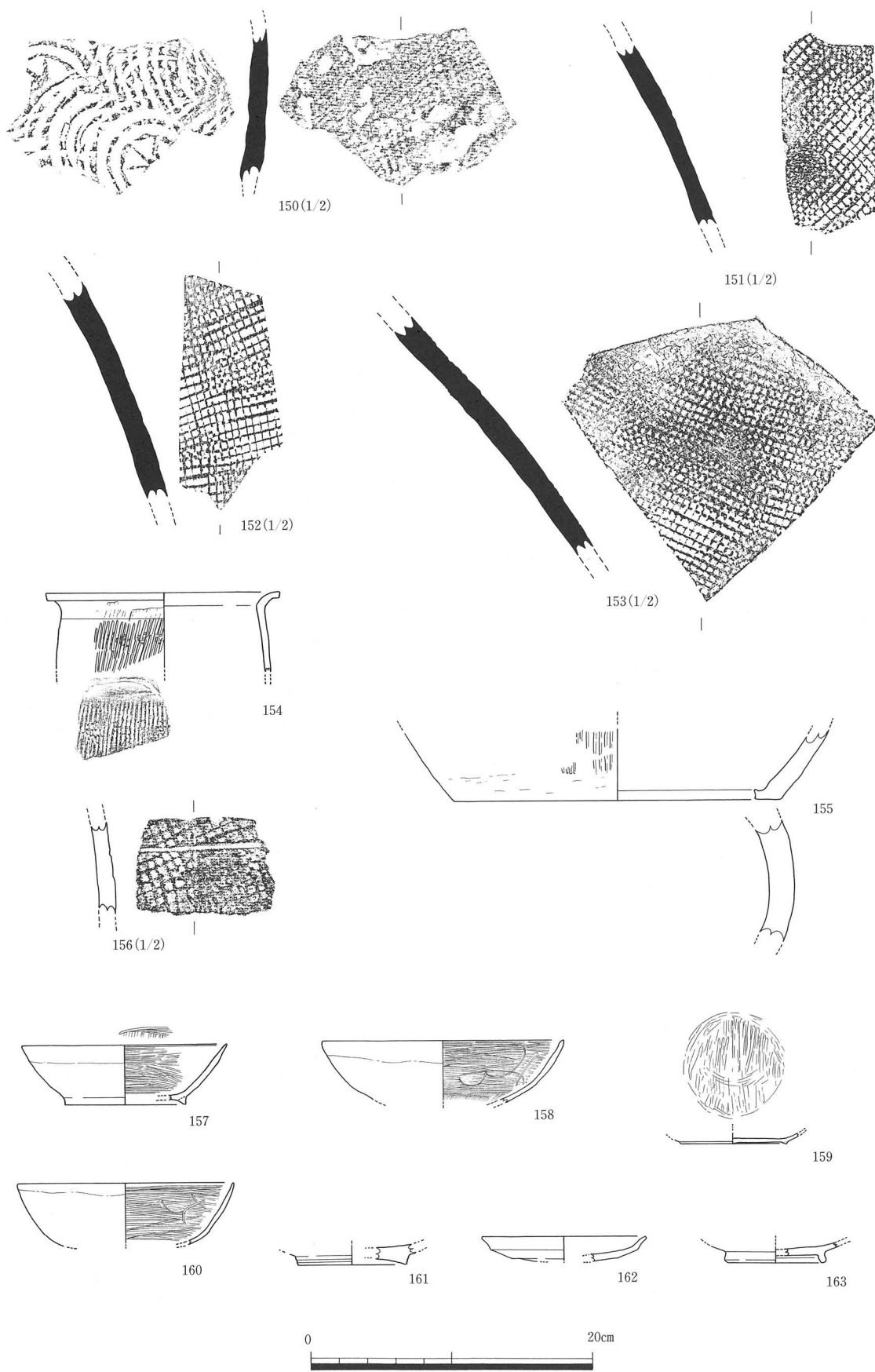
第40图 S D-C301遺物出土遺物(2)



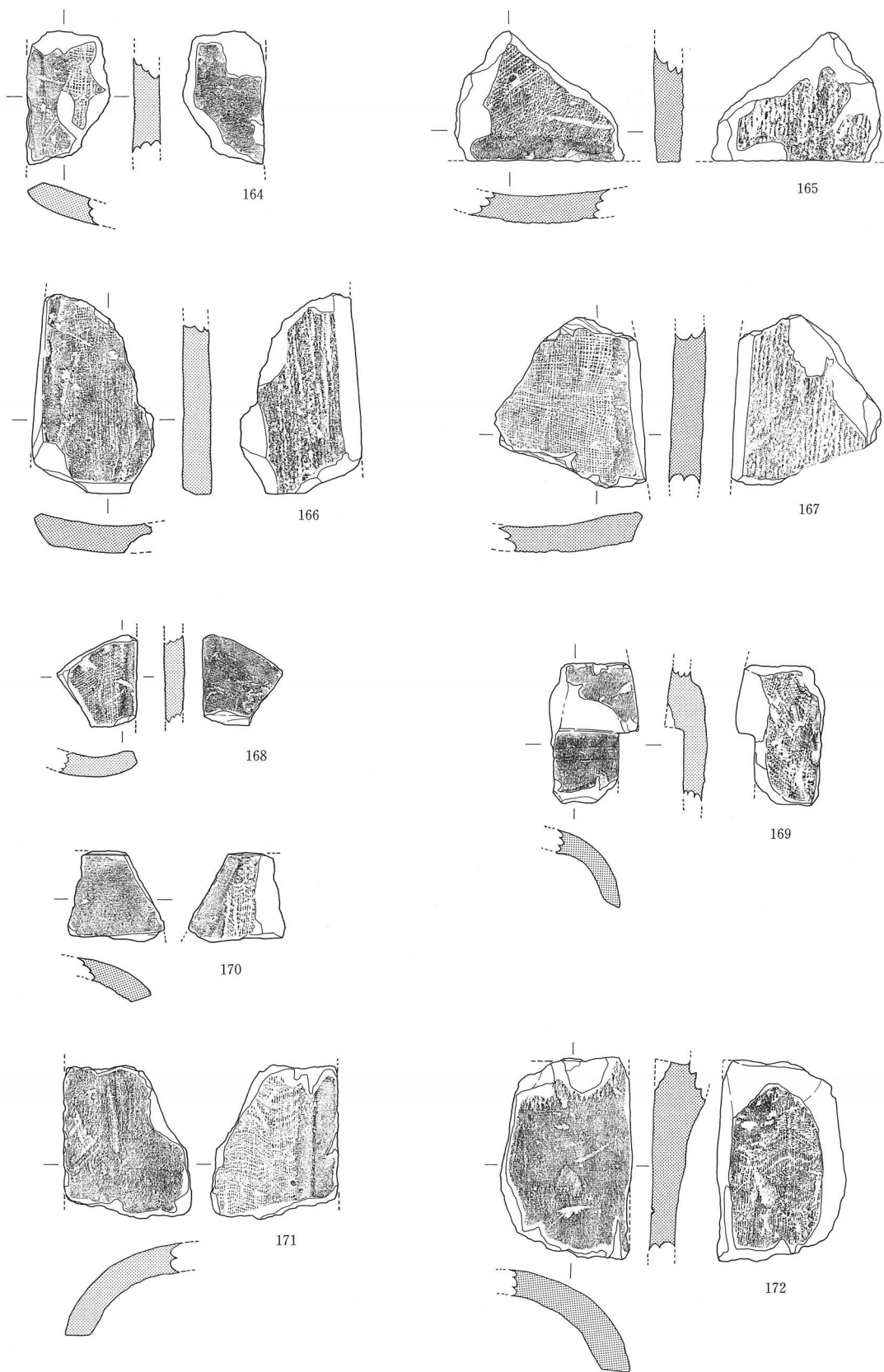
第41図 SD-C301遺物出土遺物(3)



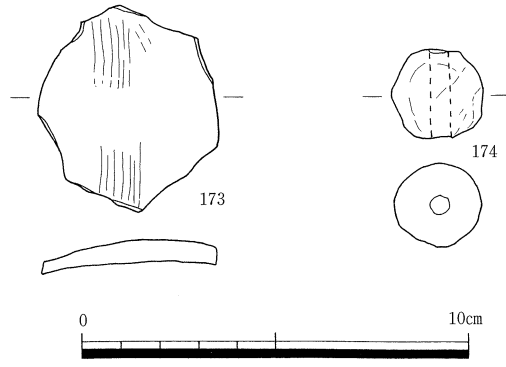
第42図 SD-C301遺物出土遺物(4)



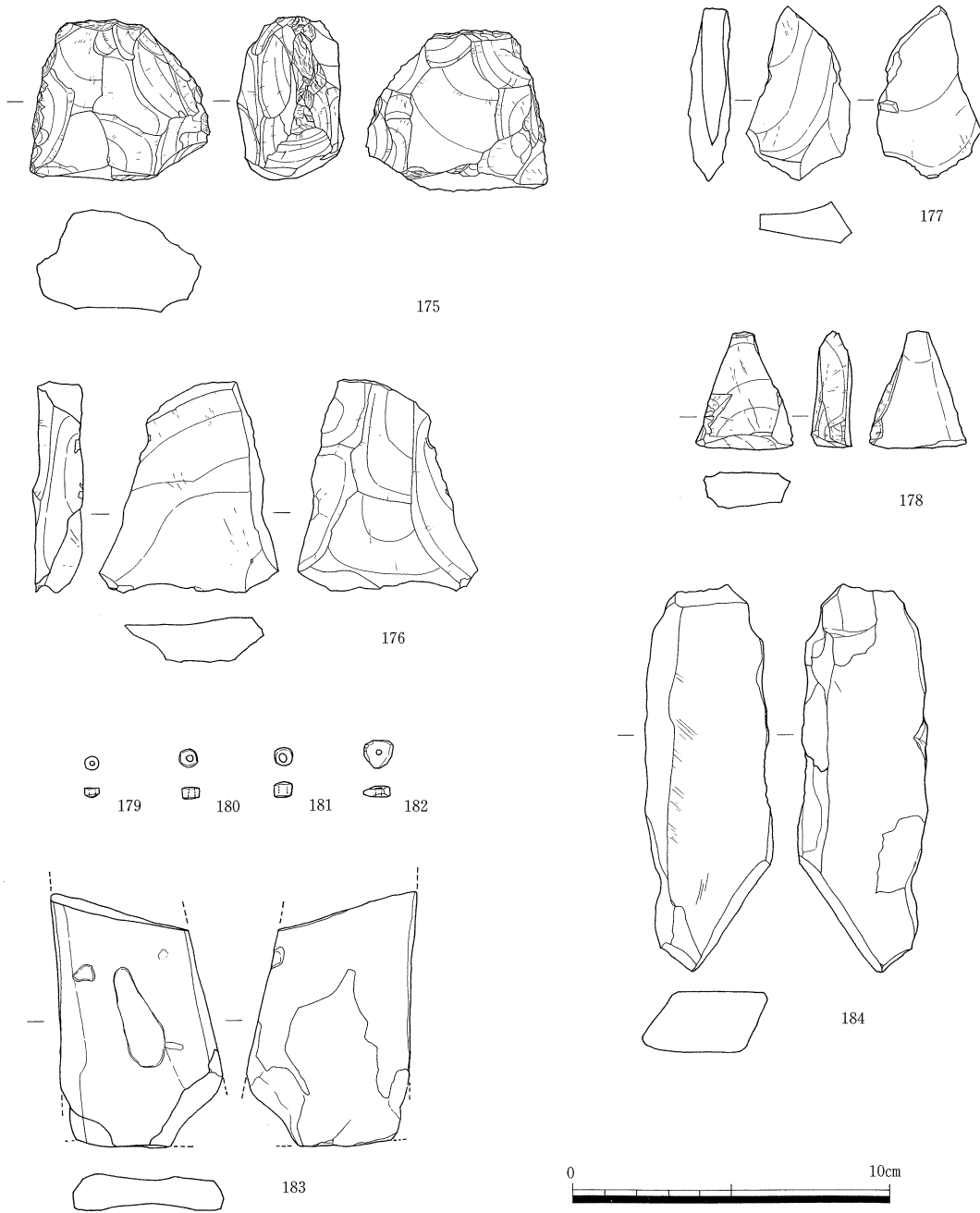
第43図 S D-C 301遺物出土遺物(5)



第44図 S D-C 301遺物出土遺物(6)



第45図 SD-C301遺物出土遺物(7)



第46図 SD-C301遺物出土遺物(8)

第5章 まとめ

今回の元粉遺跡での調査は平成3年度における調査以来、第2次となる本格的な調査であった。前回の調査では弥生時代、奈良時代を中心とした貴重な調査成果を得たが、今回の調査においても新たな知見を得ることができ、さらに本遺跡の様相が明らかになったと言える。今回の調査は事業内容の諸般の事情により調査地が分割され、かつ地形的影響から調査区全体においては若干複雑な遺構面の状況が示されたが、堆積状況等の検討により、5時期にわたる調査成果が得られた。以下、各時期について概括し、まとめとしたい。

〔第1遺構面〕

A区、C区で確認されたもので、概ね中世から近世にかけての時期に比定されるものである。具体的な集落跡としては認められず、おそらく耕作地としての様相を示すものと思われる。大東市域では北新町遺跡、御領遺跡、北条西遺跡等で明確な中世集落が確認されている他は耕作地である事例が多く、今回においてもその様相を示すものと言える。

〔第2遺構面〕

A区で確認されたもので概ね中世の時期に比定されるものである。段状の地形に沿って溝が平行して走る状況から、おそらく棚田の様相を示すものと思われ、やはり中世以降は耕作地であったことが窺える。

〔第3遺構面〕

A区で確認されたもので出土遺物から概ね平安～中世の時期に比定されるものである。わずかに土坑1基が確認されたのみであるので、その遺跡的状况については明らかにし得ないが、次項に述べる第4遺構面との関連性も含め、今後の周辺の調査成果を待ちたい。

〔第4遺構面〕

A区、B区、C区で確認されたもので、概ね奈良～平安時代にかけての時期に比定されるものである。集落的様相を如実に示すもので、奈良時代の集落跡では先に述べた今回調査地より北西に約150m地点の第1次元粉遺跡の調査で確認されており、また平安時代の集落跡では北北西に約300m地点の寺川遺跡で確認されている。このことからこの地域一帯に奈良～平安時代の集落が展開されていたことが推測され、大東市域ではあまり明確でなかった当該期の様相がこの地域を中心に明らかにされつつあると言えるだろう。

〔第5遺構面〕

A区、C区で確認されたもので、溝として報告しているがおそらく南北に流れる自然流路的性格を有するものと思われる。出土遺物は縄文時代から平安時代まで認められるもので、今回調査地周辺において各時代における活動の痕跡を窺わせるものである。

以上、概括してきた中で今回の調査においては主に奈良～平安時代での成果を中心に得ることができたが、先にも述べたように出土遺物では縄文時代から近世にまで至っており、各時代の痕跡が満遍なく認められるものである。特に範囲確認調査での出土であるが、韓国全羅南道に系譜が求められる韓式系土器の出土など東に隣接する鍋田川遺跡との関連性が認められるほか、平安時代の集落跡を考えるうえでは北に隣接する寺川遺跡の関連性が認められるものである。今後は鍋田川右岸一帯での遺跡群としてその様相を把握していくことが重要であろう。

出土遺物一覧表

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
1	土師器	鉄塔255 試掘拡D	口径(復) 15.6 器高(残) 5.8	外) 橙 内) 断	やや軟	やや粗	外面調整不明、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ	外面口縁部に煤付着
2	土師器	鉄塔265 試掘拡D	口径 15.5 器高(残) 3.9	外) ぶい黄橙 内) ぶい橙 断) 黒褐	良	密	外面ハケ目とヨコナデ、内面ハケ目後にナデ	杯底部内外面ケズリは脚部との接合を強化する為に施されたものと考えられる。杯部上半部に黒斑あり
3	須恵器	鉄塔255 試掘拡D	口径(復) 13.0 器高(残) 2.65	外) ぶい橙 内) ぶい橙 断) ぶい橙	土師質	やや粗	内外面回転ナデ	
4	須恵器	鉄塔255 試掘拡D	口径 13.4 器高 4.8	外) 灰 内) 断	良好	密	内外面回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	
5	須恵器	鉄塔255 試掘拡D	口径 12.2 器高(残) 3.6	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	良好	密	内外面回転ナデ 高台貼り付けのヨコナデ	
6	須恵器	鉄塔255 試掘拡D	口径 27.4 器高(残) 4.5	外) 灰 内) 断	良好	密	内外面回転ナデ	内面うすく降灰
7	韓式系土器	鉄塔255 試掘拡D	長(残) 7.2	外) 黄灰 内) 断	堅緻	密	外面格子目タタキ、内面ハケ目状のナデ連続にあり	硬質、外面降灰
8	須恵器	鉄塔255 試掘拡D	口径(復) 23.0 器高(残) 6.6	外) オリーブ灰 内) 断	堅緻	密	外面口縁から頸部および底部ナデ、体部格子タタキとヘラケズリ、内面雑で強いナデ	
9	韓式土器	鉄塔255 試掘拡D	器高(残) 5.3	外) 黒 内) ぶい黄橙 断) 黒褐	良	密	外面格子タタキ、内面ナデ	
10	砥石	A区第II層	長(残) 6.5 幅 3.3 厚 2.4	外) 断				使用面は磨滅の状態からみて3面と思われる砂岩?
11	土師器	A区第V層	口径(復) 9.3 器高(残) 1.4	外) ぶい黄橙 内) 断	良	密	内外面ヨコナデ	
12	土師器	A区第VI層	口径(復) 13.9 器高(残) 1.8	外) 淡橙 内) 浅黄橙 断) 淡橙	良	密	内外面ヨコナデ	
13	須恵器	A区第VI層	口径(復) 12.4 器高(残) 4.0	外) オリーブ灰、灰白 内) 断	堅緻	密	内外面回転ナデ	外面に降灰
14	灰釉陶器	A区第VI層	高台径(復) 7.2 器高(残) 1.8	外) 灰 内) 断	堅緻	密	内外面回転ナデ、高台貼り付けのヨコナデ	釉無し
15	韓式系土器	C区第II層	長(残) 3.9	外) 灰赤 内) 断	堅緻	密	外面格子目タタキ、内面ナデ	硬質
16	瓦	SD-A101	口径 7.0 器高(残) 1.4	外) 灰 内) 断	良好	密	外面ナデおよび指押さえ、内面ミガキ	
17	土師器	SD-A101	口径 9.0 器高(残) 1.3	外) 灰白 内) 断	良好	密	内外面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ	
18	陶製円板	SD-A101	長さ 4.4 幅 4.4 厚み 1.1	外) 明褐灰 内) ぶい褐 断) 明褐灰	堅緻	密		播鉢の転用? 常滑?
19	土師器	SD-C103	口径(復) 19.2 器高(残) 3.5	外) 灰白 内) 断	良	密	外面指押さえとナデ、内面ナデ	
20	黒色土器	SK-C102	高台径(復) 8.4 器高(残) 1.8	外) ぶい橙 内) 断	良	密	外面ナデ、内面ミガキ、高台貼り付けのヨコナデ	
21	土師器	SX-C101	口径(復) 7.7 器高(残) 1.5	外) 黒褐 内) 断	良	密	内外面ナデで一部ミガキ痕あり	
22	須恵器	SK-A301	口径(復) 29.0 器高(残) 4.7	外) 灰 内) 断	堅緻	密	内外面回転ナデ	口縁端部降灰
23	土師器	SX-A401	口径 10.2 器高 5.7	外) ぶい黄橙 内) ぶい黄橙 断) ぶい黄灰	良好	密	外面体部ミガキ、内面ナデおよび指押さえ、口縁部ヨコナデ 粘土ひも痕あり	
24	土師器	SX-A401	口径 20.8 器高(残) 5.1	外) 灰白 内) 断	良好	密	内外面ハケ目、内面体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	
25	土師器	SX-A401	口径(復) 20.6 器高(残) 3.6	外) ぶい橙 内) ぶい橙 断) ぶい橙	良	密	外面ケズリ、内面および口縁部ヨコナデ、内面に暗文	
26	土師器	SX-A401	口径(復) 11.8 器高(残) 4.5	外) ぶい黄橙 内) ぶい黄橙 断) ぶい黄橙	良	密	外面指押さえ、内面と口縁部ヨコナデ	口縁部に煤付着、内面に黒斑あり(コゲか)
27	土師器	SX-A401	口径 8.0 器高(残) 1.3	外) 黒褐、ぶい黄橙 内) ぶい橙 断) 褐	良好	密	外面ナデ、内面太目のミガキ、高台貼り付けとヨコナデ 底部黒斑あり	
28	土師器	SX-A401	口径(復) 9.8 器高(残) 1.3	外) ぶい橙 内) 断	良	密	内外面ヨコナデ	口縁部内外面に赤彩が施された痕跡が認められる
29	土師器	SX-A401	口径(復) 11.8 器高(残) 1.8	外) 浅黄橙 内) ぶい橙 断) 灰白	良	密	外面ナデ、内面および口縁部ヨコナデ	口縁内面と外面の一部に赤彩かと思われる痕跡あり
30	土師器	SX-A401	口径(復) 12.6 器高(残) 1.5	外) 灰黄 内) ぶい黄橙 断) ぶい黄橙	良	密	外面指押さえとナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ 口縁部に煤付着、灯明皿として使用されていたものと思われる	
31	土師器	SX-A401	口径(復) 11.0 器高(残) 3.8	外) 黒色 内) 断	良	密	外面煤付着のため不明、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	内外面煤付着
32	土師器	SX-A401	口径(復) 15.7 器高(残) 3.5	外) 黒色 内) ぶい黄橙 断) ぶい黄橙	良	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	外面煤付着
33	土師器	SX-A401	口径(復) 20.3 器高(残) 5.2	外) ぶい褐 内) 断	良	密	外面ナデと指押さえ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼 成	胎 土	技 法 の 特 徴	備 考
34	土 師 器 鉢	SX-A401	口径(復)18.0 最大径(復)18.8 器高(残)6.3	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)緑灰	良	密	内外面指押さえとナデ、口縁部ヨコナデ	
35	土 師 器 甌	SX-A401	口径18.2 器高(残)11.1	外)にぶい橙 内)灰白 断)灰白	良好	密	内外面ナデおよび指押さえ	
36	土 師 器 甕	SX-A401	口径(復)25.8 最大径(復)31.6 (鋳部)器高(残)6.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰褐	良	密	外面指押さえ後にナデ、内面ナデ、口縁部および羽部ヨコナデ	
37	須 惠 器 杯 蓋	SX-A401	口径(復)13.8 器高(残)2.9	外)灰 内)灰 断)暗赤灰	良好	密	内外面回転ナデ	
38	須 惠 器 杯	SX-A401	口径11.5 器高4.0	外)灰 内)灰 断)灰	良	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	ヘラ記号あり
39	須 惠 器 身 杯	SX-A401	口径(推)14.2 器高(残)3.7	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	
40	須 惠 器 杯 高	SX-A401	底径(復)8.7 器高(残)7.7	外)褐灰 内)灰 断)灰赤	堅緻	密	内外面回転ナデ	外面降灰、方形透かし2ヶ所残る
41	須 惠 器 不 明	SX-A401	器高(残)1.9	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、外面にカキ目・内面に瓜形文施す	
42	黒色土器 (A類)	SX-A401	口径10.0 器高(残)0.8	外)にぶい褐 内)黄灰 断)黄灰	良好	密	外面ナデ、内面ミガキ高台貼り付けとヨコナデ	
43	黒色土器 (A類) 椀	SX-A401	高台径7.8 器高(残)2.1	外)にぶい橙 内)黒色 断)灰白	良	密	外面ナデ、内面ミガキ、高台貼り付けとヨコナデ	
44	黒色土器 (A類)	SX-A401	口径8.2 器高(残)0.7	外)にぶい赤褐 内)灰 断)黄灰	良好	密	外面ナデ、内面ミガキ高台貼り付けとヨコナデ	
45	韓式系土器 甕	SX-A401	長(残)5.8 厚1.45	外)にぶい褐 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良	やや粗	外面タタキ後にナデ、内面ナデ	軟質
46	埴 輪	SX-A401	中央鋳部36.0 器高(残)4.0	外)淡黄 内)淡黄 断)淡黄	良好	密	外面ハケ目とナデ、内面ヘラナデとナデ	朝顔形
47	平 瓦	SX-A401	長(残)6.1 幅(残)8.4厚1.8	外)灰 内)灰 断)灰白		密	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	
48	平 瓦	SX-A401	長(残)19.0 幅(残)10.2厚1.7	外)暗灰 内)灰 断)灰白		密	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	
49	土 製 品 土 馬	SX-A401	長(残)7.6 幅4.7	外)にぶい黄橙 内)一 断)にぶい黄橙	良	密	手づくね成形	
50	紙 石	SX-A401	長(残)6.2 幅3.25 厚2.45 重量***	外) 内) 断)			各面に擦痕あり	
51	土 師 器 小 壺	SK-A402	口径(復)7.6 器高(残)4.8	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)にぶい黄橙、黄灰	良	密	内外面指押さえと軽いケズリ、口縁部ヨコナデ	
52	土 師 器 高 杯	SX-A402	口径(復)13.6 器高(残)9.25	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)黒	良	密	内外面ケズリ、端部ヨコナデ	
53	灰 釉 陶 器 椀	SP-A407	口径(復)7.2 器高(残)1.7	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	内外面回転ナデ	削り出し高台見込みは無軸外部底部無軸
54	土 師 器 椀	SD-B103	口径(復)13.8 器高(残)2.0	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	内外面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ	
55	土 師 器 椀	SD-B105	口径(復)15.6 器高(残)3.1	外)にぶい黄橙 内)浅黄橙 断)にぶい黄橙	良	密	外面および口縁部ヨコナデ	二次焼成をうけている
56	土 師 器 皿	SD-C201	口径(復)23.0 器高(残)2.4	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)橙	良	密	内外面ヨコナデ	
57	須 惠 器 皿	SD-C201	口径(復)20.5 底径(復)17.0 器高(残)2.1	外)灰白 内)灰白 断)灰白	不良	密	内外面回転ナデ	
58	土 師 器 甕	SD-C201	口径(復)26.8 器高(残)3.4	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良	密	内外面ハケ目、口縁部ヨコナデ	
59	須 惠 器 壺	SD-C201	高台径(復)14.5 器高(残)6.4	外)灰 内)灰 断)灰褐	堅緻	密	内外面ヨコナデ、高台貼り付けのヨコナデ	
60	須 惠 器 壺	SD-C201	口径(復)9.0 最大径(復)9.9 器高(残)2.5	外)灰 内)灰 断)灰白	堅緻	密	内外面回転ナデ	
61	須 惠 器 甕	SD-C201	口径(復)18.5 器高(残)4.5	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	内外面回転ナデ	ヘラ記号あり
62	須 惠 器 壺	SD-C201	器高(残)2.5	外) 内) 断)	堅緻	密	外面に沈線施す 外面ハケ目、内面ナデ	
63	平 瓦	SD-C201	長(残)4.7 幅(残)4.9厚1.6	外)黒褐 内)黒褐 断)明黄褐	良	密	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	
64	須 惠 器 杯 身	SK-C201	口径15.8 器高(残)3.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ	
65	須 惠 器 杯 身	SP-C221	口径(復)13.0 器高(残)1.8	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	内外面回転ナデ	
66	平 瓦	SP-C236	長(残)7.1 幅(残)7.4厚1.9	外)灰 内)灰 断)灰		密	凸面縄目タタキ、凹面布目	
67	土 師 器 皿	SP-C241	口径(復)12.0 器高(残)1.4	外)橙 内)橙 断)橙	良	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼 成	胎 土	技 法 の 特 徴	備 考
67	土 師 器 皿	S P - C 241	口径(復) 12.0 器高(残) 1.4	外) 橙 内) 橙 断) 橙	良	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
68	弥生土器 底部	S X - A 501	底径2.2 器高(残) 5.0	外) 灰黄 内) 灰黄 断) 灰黄	良好	密	内外面ヘラミガキ、内部底部ハケ目	
69	不明 筒形土製品	S X - A 501	口径3.55 底径6.3 器高20.5	外) にぶい 内) にぶい 断) 赤褐	良好	密	外面指押さえとナデ、内面ヘラケズリ とナデ 粘土ひも痕あり	一部に黒斑あり
70	楔形石器	S X - A 501	長4.7幅4.9厚2.1 重量51.6g	外) 内) 断)		サヌカイト		金山産
71	縄文土器 鉢	S D - C 301	口径(復) 32.0 器高(残) 5.5	外) 灰黄褐 内) 褐 断) 褐	良	やや粗	内外面ナデ、外面および口縁端部に凹 線文施す	中期末 北白川C I式
72	弥生土器 底部	S D - C 301	底径4.4 器高(残) 3.7	外) 灰黄褐 内) 灰黄 断) 灰	良好	密	内外面ナデ	内面に黒斑あり
73	弥生土器 底部	S D - C 301	口径3.7 器高(残) 2.2	外) 灰白 内) 灰 断) 灰	良好	やや粗	内外面ともに摩耗著しい	
74	弥生土器 底部	S D - C 301	口径3.4 器高(残) 2.0	外) 灰黄 内) 灰黄 断) にぶい	良好	やや軟	内外面ナデ	
75	弥生土器 底部	S D - C 301	口径6.0 器高(残) 3.0	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰	良好	密	内外面ナデ	
76	弥生土器 底部	S D - C 301	口径8.2 器高(残) 4.5	外) 灰白 内) 黒褐 断) にぶい	良好	やや軟	内外面ナデ	外面底部から体部にかけて 黒斑あり
77	弥生土器 底部	S D - C 301	口径9.6 器高(残) 6.2	外) 灰褐 内) にぶい 断) にぶい	良好	密	内外面ナデ	
78	弥生土器 甕(底部)	S D - C 301	底径3.6 器高(残) 3.3	外) にぶい 内) にぶい 断) にぶい	良好	密	内外面ナデ、粘土ひも痕あり 底部中央に穿孔あり	
79	弥生土器 甕(底部)	S D - C 301	底径3.8 器高(残) 2.3	外) 灰白 内) 灰黄褐 断) 褐	良好	密	外面タタキとヨコナデ、内面ヘラナデ とヨコナデ 底部中央に穿孔、穿孔は焼成前	
80	弥生土器 手焙型土器	S D - C 301	内径17.4 器高(残) 3.8	外) にぶい 内) 灰黄褐 断) 灰白	良好	密	外面ハケ目、内面ナデ 内面全体および外面一部に火を受けた 痕跡あり	
81	土 師 器 壺	S D - C 301	口径20.0 器高(残) 10.4	外) にぶい 内) 灰黄褐 断) 灰・浅黄褐	良好	やや軟	外面ナデ、内面ヘラケズリ、口縁部ヨ コナデ	
82	土 師 器 壺	S D - C 301	口径17.4 器高(残) 6.4	外) 灰黄 内) 灰黄 断) 黄灰	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
83	土 師 器 丸底壺	S D - C 301	口径9.3 器高11.1	外) 浅黄 内) 灰黄 断) 淡黄	良好	密	外面ハケ目と指押さえ、内面指押さえ 口縁部横ナデ	
84	土 師 器 壺	S D - C 301	口径10.0 器高(残) 6.0	外) 灰黄 内) 灰黄 断) にぶい	良好	密	内外面ナデ 粘土ひも積上げ痕あり	
85	土 師 器 甕	S D - C 301	口径(復) 15.0 器高(残) 9.0	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	良	密	外面ナデ、内面ナデとケズリ、口縁部 ヨコナデ	
86	土 師 器 小型丸底鉢	S D - C 301	口径(復) 12.2 器高4.0	外) にぶい 内) にぶい 断) にぶい	良	密		
87	土 師 器 皿	S D - C 301	口径(復) 9.0 器高(残) 2.3	外) 灰黄褐 内) 灰黄褐 断) にぶい	良	密	外面粗く内面精良なつくり、 外面指押さえとナデ、内面ナデ	口縁部に煤付着、灯明皿
88	土 師 器 高杯	S D - C 301	口径17.8 器高(残) 5.5	外) 灰黄 内) にぶい 断) 黄橙	良好	やや軟	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
89	土 師 器 高杯	S D - C 301	口径18.6 器高(残) 5.1	外) 灰白 内) にぶい 断) にぶい	良好	やや軟	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
90	土 師 器 高杯	S D - C 301	口径10.2 器高(残) 7.5	外) 灰黄 内) 灰黄 断) にぶい	良好	密	外面ナデ、内面ヘラケズリ、口縁部ヨ コナデ 裾部内面に黒斑あり	
91	土 師 器 蓋	S D - C 301	口径(復) 30.8 器高(残) 3.7	外) にぶい 内) にぶい 断) にぶい	良	密	内外面ナデ、端部付近ヨコナデ、内面 に暗文	
92	土 師 器 皿	S D - C 301	口径(復) 16.6 器高(残) 3.1	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	良	密	外面ケズリ後ナデ、内面ナデ、口縁部 ヨコナデ	外面底部赤変
93	土 師 器 中皿	S D - C 301	口径14.4器 高(残) 2.7	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	良好	密	外面ナデ、内面指押さえ後にナデ、口 縁部ヨコナデ	
94	土 師 器 中皿	S D - C 301	口径14.2器 高(残) 2.5	外) にぶい 内) にぶい 断) にぶい	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
95	土 師 器 杯	S D - C 301	口径(復) 23.8 器高(残) 2.9	外) にぶい 内) にぶい 断) にぶい	良	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
96	土 師 器 皿	S D - C 301	口径(復) 15.5 器高(残) 1.65	外) にぶい 内) にぶい 断) にぶい	良	密	外面指押さえとナデ、内面ナデ、口縁 部ヨコナデ	
97	土 師 器 杯	S D - C 301	口径(復) 14.0 器高(残) 4.7	外) 明赤褐 内) 灰黄褐 断) 明赤褐	良	やや粗	内外面指押さえとナデ、口縁部ヨコナ デ	
98	土 師 器 杯	S D - C 301	口径(復) 14.2 器高(残) 3.8	外) 褐灰 内) 灰黄褐 断) 黄灰	良	密	外面指押さえ、内面ナデ、口縁部ヨコ ナデ	外面煤付着、内面煤付着か
99	土 師 器 杯	S D - C 301	口径(復) 16.2 器高(残) 4.2	外) にぶい 内) にぶい 断) 明赤褐色	良	密	外面指押さえ、内面ナデ、口縁部ヨコ ナデ	
100	土 師 器 杯	S D - C 301	口径(復) 14.6 器高(残) 3.5	外) 灰黄褐 内) 灰黄褐 断) にぶい	良	密	外面指押さえ、内面表面欠損のため調 整不明、口縁部ヨコナデ	口縁部に煤付着

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
100	土師器	SD-C301	口径(復)14.6 器高(残)3.5	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)黄橙	良	密	外面指押さえ、内面表面欠損のため調整不明、口縁部ヨコナデ	口縁部に煤付着
101	土師器	SD-C301	口径(復)16.0 器高(残)4.6	外)黄橙 内)黄橙 断)黄橙	良	密	外面指押さえ、内面指押さえとナデ、口縁部ヨコナデ	外面の一部と内面に煤付着
102	土師器	SD-C301	口径(復)16.8 器高(残)4.1	外)黄橙 内)黄橙 断)黄橙	良	密	外面指押さえ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	
103	土師器	SD-C301	口径(復)10.0 器高1.4	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良	密	外面指押さえとナデ、内面ヨコナデ	
104	土師器	SD-C301	口径(復)11.0 器高1.55	外)黄橙 内)黄橙 断)黄橙	良	密	外面指押さえ、内面磨滅のため調整不明、口縁部ヨコナデ	口縁部に煤付着(灯明皿)
105	土師器	SD-C301	口径(復)9.0 器高(残)1.15	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良	密	外面ナデ、内面と口縁部ヨコナデ	
106	土師器	SD-C301	口径(復)25.8 器高(残)6.0	外)黄橙 内)黄橙 断)黄橙	良	密	内外面ハケ目、内面体部ナデ、口縁部ヨコナデ	
107	土師器	SD-C301	口径(復)19.5 器高(残)5.2	外)黄灰 内)黄灰 断)黄灰	良	密	外面ナデ、内面板ナデ、口縁部ヨコナデ	外面煤付着、内面薄く煤付着
108	土師器	SD-C301	口径(復)20.9 器高(残)6.5	外)黄灰 内)黄灰 断)黄灰	良	密	外面指押さえとナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	外面と内面口縁部煤付着
109	土師器	SD-C301	口径(復)17.8 器高(残)5.8	外)褐灰 内)褐灰 断)褐灰	良	密	内外面指押さえ、口縁部ヨコナデ	内外面煤付着
110	土師器	SD-C301	口径(復)16.2 器高(残)5.3	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)灰黄褐	良	密	外面ハケ目とみられるが磨滅著しく不明、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	
111	土師器	SD-C301	口径(復)18.2 器高(残)8.8	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)灰黄褐	良	密	内外面ナデ、内面一部板ナデ、口縁部ヨコナデ、粘土紐痕あり	内外面煤付着、外面炭化物付着
112	土師器	SD-C301	口径(復)16.6 器高(残)4.4	外)黄橙 内)黄灰 断)黄灰	良	密	内外面ナデ、内面に指押さえ、口縁部ヨコナデ 外面に工具痕あり	
113	土師器	SD-C301	口径(復)19.3 器高(残)4.1	外)褐灰 内)褐灰 断)褐灰	良	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	内外面に煤付着
114	土師器	SD-C301	口径(復)19.3 器高(残)5.0	外)黒色 内)黄橙 断)黄橙	良	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	外面と内面口縁部に煤付着
115	土師器	SD-C301	口径(復)17.6 器高(残)6.3	外)灰褐 内)灰褐 断)灰褐	良	密	外面指押さえとナデ、内面ナデと工具ナデ、口縁部ヨコナデ	
116	土師器	SD-C301	口径(復)18.4 器高(残)4.8	外)赤褐 内)赤褐 断)赤褐	良	密	外面指押さえとナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	
117	土師器	SD-C301	口径(復)17.8 器高(残)4.4	外)褐灰 内)褐灰 断)褐灰	良	密	外面ナデ、内面工具ナデ、口縁部ヨコナデ	
118	土師器	SD-C301	口径(復)12.4 最大径(復)12.9 器高(残)8.8	外)黒色 内)褐灰 断)黄灰	良	密	外面指押さえとナデ、内面板ナデとナデ、口縁部ヨコナデ	外面煤付着、内面薄く煤付着
119	土師器	SD-C301	口径(復)12.0 器高(残)3.7	外)黒褐 内)黄橙 断)黄橙	良	密	外面指押さえとナデ、内面工具ナデ痕あり	内外面煤付着
120	土師器	SD-C301	口径(復)8.8 器高(残)5.6	外)黄橙 内)黄橙 断)黄橙	良	密	内外面磨滅のため調整不明	
121	須恵器	SD-C301	最大径12.9 器高(残)2.9	外)灰 内)赤灰 断)赤灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、外面ヨコ方向に3条の籬状文	内面降灰
122	須恵器	SD-C301	口径11.2 器高(残)4.1	外)灰白 内)灰 断)黄灰	良好	密	内外面回転ナデ	
123	須恵器	SD-C301	口径16.0 器高4.9	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ、上面回転ヘラケズリ 内面に火ぶくれ痕あり	
124	須恵器	SD-C301	口径12.2 器高(残)3.2	外)灰色 内)緑灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ、上面回転ヘラケズリ	
125	須恵器	SD-C301	口径11.0 器高3.2	外)オリーブ黒灰 内)オリーブ黒灰 断)オリーブ黒灰	良好	密	内外面回転ナデ、上面ヘラ切り	焼ひずみあり
126	須恵器	SD-C301	口径21.0 器高(残)1.8	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	内外面回転ナデ、端部ヨコナデ つまみ部ハリツケ	
127	須恵器	SD-C301	口径(復)34.8 器高(残)6.5	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、つまみ部付近に貼り付け時のヨコナデ	つまみ欠失
128	須恵器	SD-C301	口径(復)16.8 器高(残)1.05	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ	転用碗として使用、内面に墨付着 口縁部より内側研磨によりつるつるしている
129	須恵器	SD-C301	口径(復)13.8 器高(残)1.2	外)灰白 内)明オリーブ灰 断)明オリーブ灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、つまみ部貼り付けのヨコナデ	
130	須恵器	SD-C301	口径14.0 器高4.5	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	
131	須恵器	SD-C301	口径12.8 器高3.8	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	
132	須恵器	SD-C301	口径12.0 器高(残)5.1	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	
133	須恵器	SD-C301	口径12.6 器高(残)3.7	外)オリーブ灰 内)オリーブ灰 断)オリーブ灰	良好	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼 成	胎 土	技 法 の 特 徴	備 考
133	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径12.6 器高(残) 3.7	外)オリーブ灰 内)オリーブ灰 断)オリーブ灰	良好	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	
134	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径(復) 器高(残) 2.5	外)灰 内)オリーブ灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ	
135	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径9.6 器高3.8	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ	
136	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径(復) 器高(残) 4.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	
137	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径14.4 器高4.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	内外面回転ナデ	
138	須 恵 器 底 部	SD-C301	口径9.4 器高(残) 2.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、高台貼り付けのヨコナデ	
139	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径(復) 器高(残) 4.3	外)灰 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	内外面回転ナデ、高台貼り付けとヨコナデ	
140	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径13.4 器高3.8	外)灰 内)灰 断)明赤灰	良好	密	内外面回転ナデ、高台内ヘラ切り後ナデ、高台貼り付け後にヨコナデ	
141	須 恵 器 杯 身	SD-C301	口径13.0 器高6.1	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ、高台内ヘラ切り後ナデ、高台貼り付け後にナデ	
142	須 恵 器 壺	SD-C301	口径7.4 器高8.8	外)オリーブ黒 内)灰色 断)	良好	密	内外面回転ナデ、外面底部付近指押さえ	口縁部内面、体部外面上半部に灰かぶる
143	須 恵 器 壺	SD-C301	口径8.2 器高(残) 8.9	外)灰 内)灰 断)灰白	良好	密	内外面回転ナデ	
144	須 恵 器 壺	SD-C301	最大径(残) 13.6 器高(残) 2.1	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、外面肩部にカキ目施す	外面降灰
145	須 恵 器 甕	SD-C301	器高(残)2.6	外)にぶい赤褐 内)にぶい橙 断)灰黄褐	堅緻	密	内外面ヨコナデ	
146	須 恵 器 甕	SD-C301	口径(復) 器高(残) 6.5	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、外面に簾状文、内面に同心円文タタキ、口縁端部折り曲げ	
147	須 恵 器 甕	SD-C301	口径29.4 器高(残) 4.1	外)灰 内)灰 断)褐灰	良好	密	内外面回転ナデ	外面灰釉
148	須 恵 器 脚 部	SD-C301	口径8.4 器高(残) 2.7	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	内外面回転ナデ	径0.5cmほどの円形すかしあり
149	須 恵 器 臬	SD-C301	胴径15.6 器高(残) 8.8	外)灰 内)灰 断)赤灰	良好	密	内外面回転ナデ、頸部および体部に波状文施す、内面底部付近指押さえ、体部波状文部に径1.5cmほどの孔あり	
150	須 恵 器 甕	SD-C301	長(残)5.1	外)灰白 内)灰白 断)灰白	軟	密	外面タタキ目、内面同心円文状の当て具痕	
151	韓式系土器 甕	SD-C301	長(残)7.1	外)灰 内)灰 断)灰赤	堅緻	密	外面格子目タタキ、内面ナデ	硬質
152	韓式系土器 甕	SD-C301	長(残)8.4	外)灰 内)灰 断)赤褐	堅緻	密	外面格子目タタキ、内面ナデ	硬質
153	韓式系土器 甕	SD-C301	長(残)10.4	外)灰 内)灰 断)灰赤	堅緻	密	外面格子目タタキ、内面指押さえとナデ	硬質
154	韓式系土器 甕	SD-C301	口径(復) 器高(残) 5.7	外)にぶい橙 内)明赤褐 断)にぶい褐	良	密	外面鳥足文後にタタキ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	外面と内面口縁部に煤付着、軟質
155	土 師 器 甌	SD-C301	底径23.2 器高4.9	外)にぶい橙 内)にぶい褐 断)にぶい褐	良好	密	外面タタキおよびヘラケズリ、底部ナデ、内面ナデ	
156	韓式系土器 不 明	SD-C301	器高(残) 3.4	外)灰白 内)灰白 断)灰黄	良	密	外面に1条の沈線あり、外面格子目タタキ、内面ナデ	軟質
157	黒色土器 (A類) 椀	SD-C301	口径(復) 高台径(復) 器高4.3	外)にぶい橙 内)黒色 断)灰白	良	やや粗	外面ヨコナデ、高台貼り付け、内面ミガキ	
158	黒色土器 (A類) 椀	SD-C301	口径(復) 器高(残) 4.3	外)にぶい黄橙 内)黒色 断)にぶい黄橙	良	密	外面ヨコナデおよび指押さえ、内面ミガキ	
159	黒色土器 (A類) 椀	SD-C301	底径7.8 器高(残) 0.7	外)灰黄 内)灰 断)灰	良好	密	外面ナデ、内面ミガキ、高台貼り付け	
160	黒色土器 (A類) 椀	SD-C301	口径(復) 器高(残) 4.5	外)にぶい橙 内)黒色 断)明褐灰	良	密	外面ナデ、内面ミガキ	
161	緑釉陶器 椀	SD-C301	高台径(復) 器高(残) 1.4	外)灰白 内)灰白 断)灰	良	密	内外面回転ナデ後に丁寧なヘラミガキ、回転ケズリ出しで台作る	内面無釉、猿投窯?
162	緑釉陶器 皿	SD-C301	口径(復) 器高(残) 1.9	外)灰白 内)明オリーブ灰 断)灰白		密	内外面回転ナデ	内外面に施釉
163	灰釉陶器 椀	SD-C301	高台径(復) 器高(残) 1.4	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面回転ナデ、高台ケズリ出し	内外面に施釉
164	平 瓦	SD-C301	長(残)9.1幅(残) 5.6厚1.8	外)灰白 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	やや軟	やや粗	凸面ナデ、凹面布目、端部ヘラ切り	
165	平 瓦	SD-C301	長(残)8.8幅(残) 11.6厚1.9	外)灰 内)灰 断)灰	良 (硬質)	やや粗	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	
166	平 瓦	SD-C301	長(残)11.9幅(残) 8.0厚2.0	外)灰 内)灰 断)黄灰	硬質	密	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	内面と側面に煤付着

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼 成	胎 土	技 法 の 特 徴	備 考
166	平 瓦	SD-C301	長(残)11.9 幅(残)8.0厚2.0	外)灰 内)灰 断)黄灰	硬質	密	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	内面と側面に煤付着
167	平 瓦	SD-C301	長(残)8.7 幅(残)9.7厚2.3	外)暗灰 内)暗灰 断)黄灰	硬質	密	凸面縄目タタキ、凹面布目、端部ヘラ切り	
168	平 瓦	SD-C301	長(残)5.4 幅(残)5.3厚1.4	外)黒褐 内)黄灰 断)灰黄	良 (やや軟質)	密	凸面ナデ、凹面布目、端部ヘラ切り	
169	丸 瓦	SD-C301	長(残)9.4 幅(残)6.0厚1.6 (玉縁)2.5	外)灰白 内)灰黄 断)灰白		密	凸面ナデ、凹面布目、端部ヘラ切り	
170	丸 瓦	SD-C301	長(残)6.1 幅(残)6.5厚1.6	外)暗灰 内)暗灰 断)	良	密	凸面ナデ、凹面布目、端部ヘラ切り	
171	丸 瓦	SD-C301	長(残)10.4 幅(残)8.6厚1.9	外)暗灰 内)暗灰 断)灰白	良	やや粗	凸面縄目タタキをナデ消す、凹面布目、端部ヘラ切り	
172	丸 瓦	SD-C301	長(残)13.7 幅(残)8.8厚3.5	外)黒 内)灰黄褐 断)橙		やや粗	凸面縄目タタキ後ナデ、凹面布目	
173	土製円板	SD-C301	長さ5.3 幅4.6 厚み0.6	外)褐 内)褐 断)褐	良好	密	外面に6条の直線文	
174	土製品 土 玉	SD-C301	長径2.4 短径2.2 重量***	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密		径0.5mmの穿孔あり
175	楔形石器	SD-C301	長5.15幅5.7厚3.3 重量116.7g	外) 内) 断)		サヌカイト		二上山産
176	石 核	SD-C301	長6.7幅5.7厚1.6 重量55.3g	外) 内) 断)		サヌカイト		二上山産
177	剥 片	SD-C301	長5.45幅3.3厚1.3 重量19.8g	外) 内) 断)		サヌカイト		二上山産、被熱あり
178	剥片か	SD-C301	長3.75幅3.15 厚1.4重量15.2g	外) 内) 断)		サヌカイト	折損、折れにより不明	二上山産
179	滑石製 石 玉	SD-C301	長0.45 幅0.45 厚0.3	外) 内) 断)				
180	滑石製 石 玉	SD-C301	長0.55 幅0.55 厚0.4	外) 内) 断)				表面に細かい縦方向の刻み (キズ)あり
181	滑石製 石 玉	SD-C301	長0.6 幅0.55 厚0.5	外) 内) 断)				
182	滑石製 石 玉	SD-C301	長0.4 幅0.35 厚0.3	外) 内) 断)				
183	砥 石	SD-C301	長(残)8.0 幅5.4 重量56.8g	外) 内) 断)		安山岩		
184	砥 石	SD-C301	長(残)12.3 幅4.05 重量150.2g	外) 内) 断)				



1. A区 第1遺構面全景(北より)



2. A区 第4遺構面全景(南より)

図版2
遺構(2)



1. A区 第5遺構面全景(北より)



2. A区SX-A501遺物出土状況(東より)



1. B区 第1遺構面全景(北西より)



2. C区 第1遺構面全景(北東より)



1. C区第2遺構面全景(北より)



2. SP-C236(南西より)



1. SD-C301 (北東より)



2. SD-C301 土器③出土状況 (北より)

図版 6
出土遺物 (1)



1



8



16



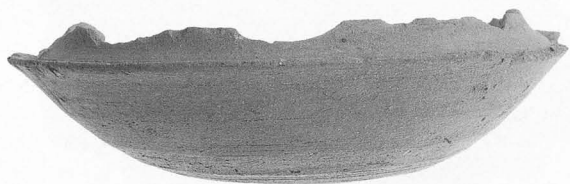
18



23



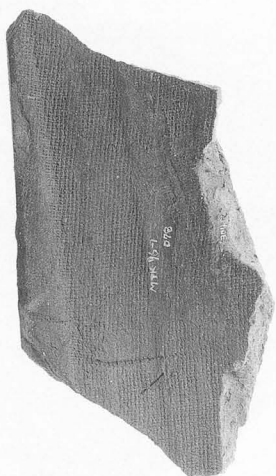
25



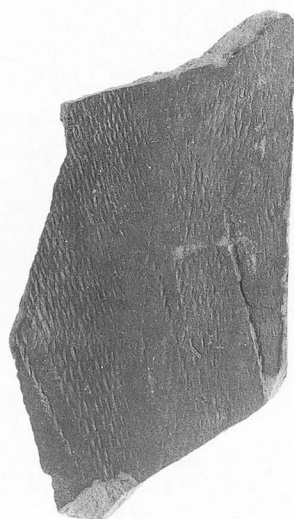
38



46



48



48'



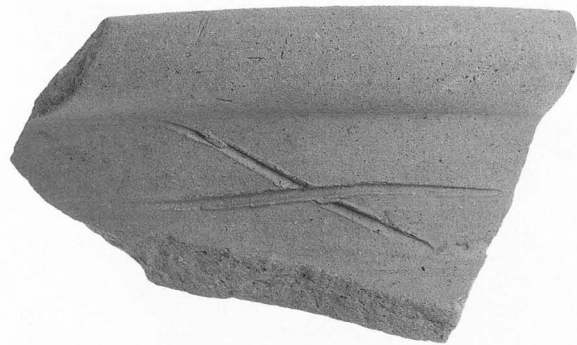
49



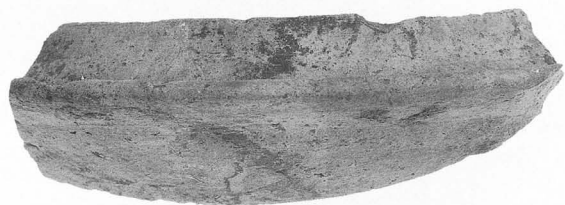
50



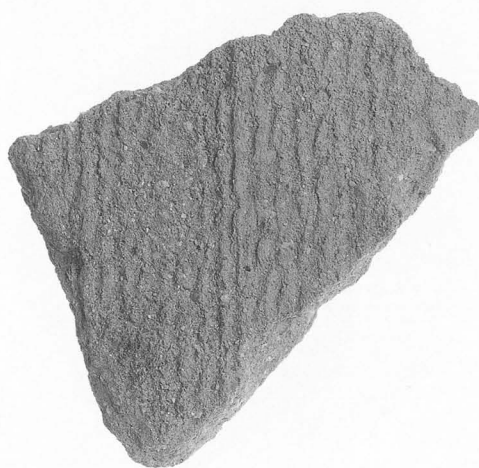
51



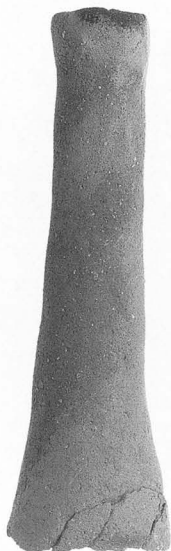
61



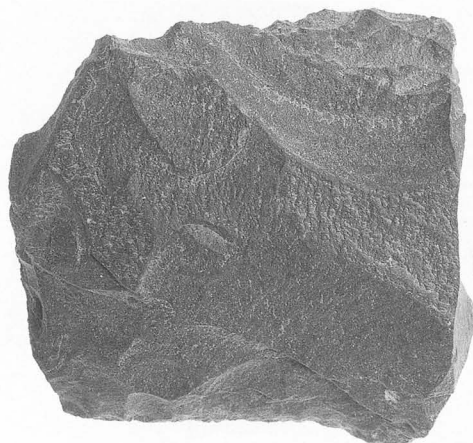
65



66



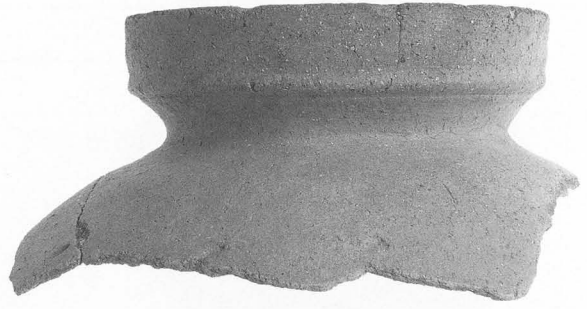
69



70



71



81



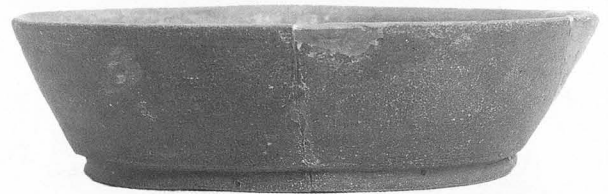
83



110



127



140



142



149



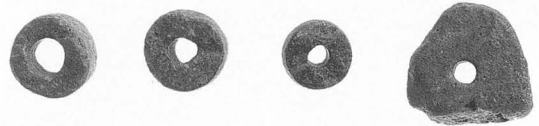
166



174



175



181

180

179

182

報 告 書 抄 録

ふりがな	もとこ いせき							
書名	元粉遺跡Ⅱ							
副書名	架空送電線〔多奈二火力線・鉄塔No.255〕建替えに伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第27集							
編著者名	中達健一							
編集機関	大東市教育委員会生涯学習部生涯学習課							
所在地	〒574-0076 大阪府大東市曙町4番6号 TEL 072-870-9105							
発行年月日	平成20年(2008)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとこいせき 元粉遺跡	おおさかふだいとうし 大阪府大東市 なかがいと 中垣内3丁目	27218	5	34' 42' 15"	135° 38' 58"	平成9年3月3日) 平成9年4月24日	[A区] 20.68㎡ [B区] 21.8㎡ [C区] 75.7㎡ [合計] 117.98㎡	架空送電線 〔多奈二火力 線・鉄塔 No.255〕建替え
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
もとこいせき 元粉遺跡	集落	縄文～ 弥生時代			中期縄文土器 中期弥生土器 手焙形土器			
		古墳～ 平安時代	溝、土坑、ピット		土師器、須恵器 韓式系土器 黒色土器A類、瓦器 瓦、土製品、石製品		韓国全羅南道 に系譜が求め られる韓式系 土器	
		中～近世	溝、土坑、鋤溝 耕作に伴う水路		土師器、黒色土器B類、 瓦器、陶器、磁器 瓦			

印刷物番号

19—62

大東市埋蔵文化財調査報告第27集

元粉遺跡Ⅱ

—架空送電線鉄塔〔多奈二火力・鉄塔No255〕建替えに伴う発掘調査報告書—

2008年3月31日発行

編集・発行 大東市教育委員会

〒574-0076 大東市曙町4番6号
TEL. 072-870-9105

印刷・製本 株式会社ミラテック

〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番9号
TEL. 06-6354-3081
